

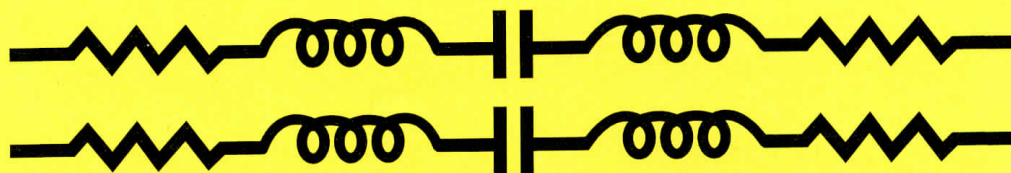
岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

創立75周年特集号

第 63 号

2017年3月発行



目 次

会長挨拶	会長 篠福 寛	1
特集 岩手大学電気電子情報科会創立75周年		
カラー写真		3
創立75周年記念事業の概要		7
75周年に寄せて	清水 健司	8
	西館 数芽	9
	萩原 義裕	10
草刈功労賞受賞者紹介・選考理由		11
受賞者から	【草刈功労特別賞】 太田原 功	12
	【草刈功労賞】 長岐 芳郎	15
	【草刈功労賞】 歳弘 健	16
	【草刈功労賞】 小野寺瑞穂	17
退職した先生からの寄稿	千葉 則茂	19
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 西館 数芽	21
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 今野 晃市	22
第13回（平成27年度）草刈賞受賞者		23
《支部だより》平成28年度東京支部報告	田中 健二	24
平成28年度仙台支部報告	数藤 崇	25
平成28年度盛岡支部報告	久保田賢二	26
平成28年度岩手大学電気電子情報科会総会		27
平成28年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録		27
平成27年度決算書		28
平成28年度予算書		28
平成28年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		29
平成28年度システム創成工学科電気電子情報系名簿		30
特別寄稿		
理工学部長より感謝状	稲田 興	31
米国東海岸4都市を訪ねて	伊藤 稜威	33
総会添付資料		36
平成28年 年表		37
岩手大学電気電子情報科会会則		39
トピックス・編集後記		40
平成29年度総会のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 簗 福 寛 (昭和38年電気卒)



岩手大学電気電子情報科会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 63 号」をお届けできることを嬉しく思います。

母校、岩手大学工学部は平成 28 年 4 月に理工学部に変更し、再編されました。これまでの工学部電気電子・情報システム工学科は理工学部システム創成工学科の二つのコース、電気電子通信コースと知能・メディア情報コースとになりました。昨年この二つのコースに入学された学生の皆さんにも電気電子情報科会に入会いただき、岩手大学電気電子情報科会は滞りなく運営されております。

ご承知のように、今年、平成 29 年 1 月 1 日は本科会創立 75 年に当たっております。この件は一昨年 10 月の第 3 回理事会において話し合わせ、平成 28 年度の総会当日、総会に引き続き創立 75 周年記念式典を行うことになりました。本 63 号はこの総会と創立 75 周年記念式典の内容を中心とした特集号といたしました。

昨年 1 月、本会顧問佐藤淳先生逝去の報 (1 月 6 日) に接しました。本年 1 月は一周忌にあたりますが厳寒期でもあり温暖の季節、本科会有志により「佐藤淳先生を偲ぶ会」を行う計画があります。このことについては本誌同封の別紙をご覧ください。

また、昨年 4 月には電気工学科の工場 (工作室) の室長でありました 田中博さんがお亡くなりになりました。享年 96 歳でした。田中さんは昭和 33 年機械工学科の工場から電気工学科の工作室に異動になり、ご定年まで 23 年間、卒業研究の学生や教員の実験装置の設計や試作にご指導を頂きました。

さて、当科会の会誌発行や新入会員歓迎会等の事業は入学時の「入会費」(1 万円) と卒業後 10 年ごとに納入頂く「10 年会費」(1 万円) によって遂行されております。未納の方には郵便振替用紙を同封しておりましたが郵便振替用紙を会誌に同封するには一祐会の個人情報保護規則の下で名簿データを利用することになります。現在その手続きについて一祐会と協議をしております。

今、この原稿を執筆中に大変気掛かりなことが起こりました。アメリカの大統領の選挙結果です。テレビや新聞のニュース解説では一年先の世界情勢さえ予測の難しい状況になっているようです。いかなる状況が到来いたしましても私達 岩手大学電気電子情報科会会員は健康第一を旨として困難な社会状況を乗り越えなければならないと思います。

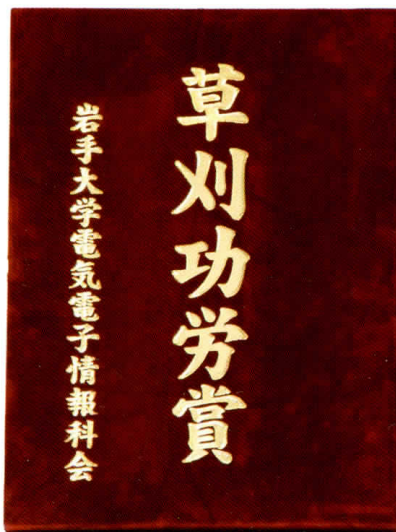
皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

岩手大学電気電子情報科会 創立75周年特集



左から 長岐芳郎氏 歳弘 健氏 篠福寛会長 太田原 功氏 小野寺瑞穂氏

記念式典・表彰



草刈功労賞 表彰楯



賞状と副賞のクリスタルガラス



旗福寛会長 あいさつ



萩原義裕 知能・メディア情報コース長代理祝辞



ご来賓の皆様

清水健司 一祐会副会長

萩原義裕 知能・メディア情報コース長代理

西館数芽 電気電子通信コース長



西館数芽 電気電子通信コース長祝辞



草刈功労特別賞表彰 太田原功氏



草刈功労賞表彰 歳弘健氏



草刈功劳賞表彰 長岐芳郎氏



草刈功劳賞表彰 小野寺瑞穂氏

祝賀会



立花龍一副会長 主催者 あいさつ



乾杯
太田圭一氏



清水健司 一祐会副会長
祝辞



お祝いの言葉
佐々木喜八郎氏



久保田賢二盛岡支部長
発声で中締



懇談風景

集合写真



後列 左から

長田洋(電気62) 木村彰雄(情報H3) 佐藤信(電子57) 鎌田真人(情報57) 星山洋二郎(情報58)
大島修三(電情博H11) 高橋修三(電情博H27) 小南毅(電気44) 宮手敏雄(電気44) 田代良二(電気44)
伊東寿勝(電気H1) 村田崇(電気H2) 鈴木順(電気H11)

三列目 左から

吉田幹伸(電子H6) 鈴木守(電気44) 岡英夫(電気修48) 久保田賢二(電気42) 千葉則茂(電気50)
多田静香(電情H24) 佐々木良治(電気43) 高橋史也(電電情H27) 鳥谷部達雄(情報56)
三浦敦嗣(電電情H27) 柳橋好子(電子45) 立花龍一(情報61)

二列目 左から

谷口宏(電子45) 渡部雅幸(電気44) 飛世政和(電気44) 田村由和(電子56) 齊藤健(電気38)
田中健二(電子49) 飯岡圭輔(電気33) 佐藤匡(電気40) 吉田英夫(電気41) 武田寿郎(電気41)
齋藤弘(電気34) 岡本康之(電気38)

前列 左から

柏葉安兵衛(電気38) 佐々木喜八郎(電気28) 山崎時男(電気24) 萩原義裕(知能・メディア情報コース長代理)
長岐芳郎(電気34) 歳弘健(電気33) 旗福寛(電気38) 太田原功(電気30) 小野寺瑞穂(電気29)
西館数芽(電気電子通信コース長) 清水健司(一祐会副会長) 太田圭一(電気24) 杉本務(電気33)

岩手大学電気電子情報科会 創立75周年記念事業の概要

1. 記念式典（岩手県公会堂 26 号室における功労者の表彰（草刈功労賞贈呈））
2. 記念祝賀会（岩手県公会堂 21 号室における祝宴）
3. 「きたかみ」（63 号）特集号の発行

創立 75 周年記念事業の経緯

本件については平成27年度第3回理事会（平成28年1月30日）の議題の4、3）「平成28年度総会と創立75周年事業について」という表題で協議がなされた。このことについて、籙福会長より28年度総会当日、東京で行われた70周年記念式典に倣い75周年記念式典を挙行してはどうかという提案がなされ、討議の結果了承された。

式典は平成28年6月18日、総会終了後、午後3時20分より岩手県公会堂26号室において総会を行い、引き続き式典を挙行することとし本科会の発展に功績のあった方々の表彰（草刈功労賞の贈呈）を行う。その後、21号室に会場を移して祝宴を催すこととした。

また、理事全員を実行委員とし、一祐会会長と学科のコース長の先生をご招待することとし、草刈功労賞選考委員長は柏葉安兵衛前会長にお願いした。

岩手大学電気電子情報科会 75 周年によせて

一祐会 副会長

清水 健 司 (昭和 47 年応用化学科卒)



電気電子情報科会の創立 75 周年、おめでとうございます。これまでの先輩諸氏のご努力に敬意を表すとともに会の継続、継承に感激と感謝を申し上げます。

世界の社会状況も著しく変化していて、国内では、人口減少に関わる様々な影響と対策が、地方創生として、地域の活性化に向け全国的に取り組まれています。「ひとづくり」が課題の 1 つです。その中であって、電気電子情報科会は、同窓生の親睦のための懇親の場づくりから、母校や同窓会および同窓生への支援活動、特に意欲的な学生への草刈賞の贈呈や同窓会活動へご尽力された方々への草刈功労賞の贈呈を、特筆すべきは、63 号発行に至る会誌「きたかみ」の継続にあることなど、多くの敬服すべき活動をなされています。大いに同窓会として参考にさせていただきたい運営活動です。

創立 75 周年祝賀会では、たくさんの諸先輩にお会いさせていただきました。その席では、学生時代に教えていただいた恩師の方々にも、

また、大学勤務時代には、同僚としてお世話いただいた教職員の方々ともお会いさせていただきました。とてもなつかしく、また楽しい時間と場をいただきました。ありがとうございました。

同窓会に関わらせていただき、祝賀会の場でもお話させていただきました様に、いつも思うのですが、やはり「同窓会」の場は、すぐ昔にもどることができ、思い出に花を咲かせ、忌憚なく諸先輩や同級生および後輩の方々とお会いできる、楽しくにぎやかな場であることが、うれしくてたまりません。

縁あって今、大学退職後、岩手県庁で、政策地域部地域振興室に定住・交流促進専門員として勤めさせていただいています。まさに、人口対策が急務で、県内教育機関の同窓会の方々の賛同とご支援をいただき、県内企業さんへの就職促進と、県外での卒業生の方々の U I J ターンに関して支援事業を手がけています。また、同窓会の方々を通じて支援事業の広報と実施にも勤めています。ご希望の方々やお話などをお聞きしましたら、気兼ねなく小職の利活用をお願いします (mail:kenji-shimizu@pref.iwate.jp,

tel:019-629-5211)。これも同窓生の勤めと思っています。この場をお借りしてお願い申し上げます。

これからこそ、明るく楽しい同窓会での「ひとのつながり」が大切になると思います。

ぜひ、電気電子情報科会の皆様の、これまで

以上のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

また、一祐会への、ご支援ご協力もお願い申し上げます。

電気電子情報科会 75 周年おめでとうございます。

祝！科会創立 75 周年

電気電子通信コース長
西 館 数 芽



科会創立 75 周年おめでとうございます。盛岡で開催されました 75 周年記念式典・祝賀会に出席させていただき、会員の皆さんにお会いでき、楽しく過ごさせていただきました。当会が長きにわたり歴史が刻まれてきましたのも、皆様方をはじめとする先輩諸氏のご尽力の賜と拝察いたします。

工学部が理工学部へと変わり、学科もシステム創成工学科電気電子通信コースとなりました。学部の名称に「理」がついたことは、エンジニアリングにサイエンスを取り込もうという作戦でもあります。また学科も、一見、システ

ム創成工学科のなかに埋もれてしまったように見えるかもしれませんが、これは文科省対策ということもありまして、本質は学科として機能しております。

我々の使命は学生さんを育て社会に送り出すことではありますが、その一方で、学生さんから学ぶことも多々あります。大学と言う環境の元で、学科名などは幾度となくかわりますが、電気電子情報の分野において互いに切磋琢磨し、明日の岩手県を、明日の日本を担う優れた人材が巣立っていくよう我々スタッフ一同、努力する所存です。皆様におかれましては、これまで同様、是非、温かい目で母校のことを見守ってくださるようお願いいたします。

創立 75 周年によせて

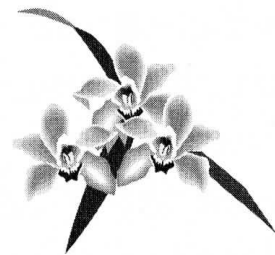
知能・メディア情報コース長（代理）
萩原 義裕



創立 75 周年おめでとう
ございます。先日盛岡で開
催された式典にお招きい
ただき、初めて参加しまし
たが、ご列席の皆様のおか
げで楽しいひと時を過ご

することができました。岩手大学では、今年度から学部が改組され、工学部は理工学部となり、数学や物理学、理学等に関わりの深い教員も人文社会学部から理工学部へ異動・参加することになりました。それとともに、電気電子・情報システム工学科も、電気電子通信コースと知能・メディア情報コースに分かれ、システム創成工学科という大きな枠組みのなかで、機械科学コース、社会基盤・環境コースとともに専門分野をまたいだ新しい教育研究を目指しております。とはいえ、入試等はコースごとに行われるため、コースごとの独自性も発揮しやすくなると考えております。反面、将来的な人口減で、受験人口・労働人口が減る影響を各コースが直接的に受けるという心配もございます。入試倍率等もすでに、コースごとに年度間の変動がた

いへん大きく、大学にとっても受験生にとっても常に不安を抱えての運営とならざるを得ない状況でございます。こういった不透明な時代にあって、今後の先行きが見通せない今日、大学と新卒の方・古くからのOBの皆様との相互の緊密な交流ができれば、私共にとって心強い限りです。先日お邪魔した式典でも、ご列席の皆様のお話を伺うことができ、楽しいだけでなく、学生を送り出す側として大変有益な情報交換ができました。こういったつながりは、長い歴史がある学科ならではの貴重かつ強力な武器だと考えております。貴会のご発展とともに、大学の存続も寄り添わせていただければと思います。貴会会員の皆様のご健勝と、貴会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



創立75周年記念 草刈功労賞選考報告

草刈功労賞が制定されたのは 2011 年に行われた科会創立 70 周年記念事業のときで、3 つの選考基準を定めて選考し、同年 11 月 29 日の記念式典の席でそれまでに功労のあった 18 名の方々に贈呈いたしました。

今回の 75 周年記念式典に当たって、草刈功労賞選考委員会（委員長 柏葉安兵衛）を設置し、前回と同じ選考基準の下で、前回の選考での見落としのチェックと今回該当する方々の推薦を各支部、事務局にお願いし、その結果を受けて委員会で選考を行い、4 名の方々を創立 75 周年記念式典実行委員会を兼ねる科会理事会に推薦し、功労者として承認されました。2016 年 6 月 18 日の記念式典において草刈功労賞を贈呈し、謝意を表すことにしました。

（選考基準）

- ①会長、支部長として科会振興に尽力された方々
- ②会長、支部長の職に就かなかったが、科会の振興に格段の貢献をされた方々
- ③選考時の年齢が満 80 歳以上の方々（故人は対象にしない）

【草刈功労特別賞（振興）】

太田原 功氏
（昭和 30 年卒）第 18 代会長

昭和 34 年に岩手大学に勤務以来今日まで、半世紀以上にわたって科会の運営に携わり、情熱をもって様々な困難を解決して今日の岩手大学電気電子情報科会を育て上げた。また、一祐会第 9 代会長に選出されて岩手大学同窓会連合の設立に中心的役割を果たし、その初代会長に就任するなど、岩手大学の同窓会活動にも尽力した。

- 岩手大学電気科会創立 50 周年記念事業実行委員会副委員長
- 草刈先生ご生誕 100 年記念事業実行委員会副委員長

【草刈功労賞（支部長）】

長 岐 芳 郎氏
（昭和 34 年卒）第 7 代東京支部長

科会会員の大多数が所属する東京支部で、副支部長を務めたのち支部長に就任して東京支部の発展に力を注ぎ、科会発展に貢献した。およそ 100 名が参加して東京で開催された平成 8 年度岩手大学電気電子情報科会総会を成功に導いたほか、平成 23 年 10 月に盛大に開催された科会創立 70 周年記念事業の記念祝賀会事務局を担当した。

【草刈功労賞（支部長）】

歳 弘 健氏
（昭和 33 年卒）第 4 代盛岡支部長

卒業以来科会幹事、理事、会計監査、盛岡支部長を歴任し、科会の発展に貢献した。特に、母校在籍卒業生に全面的に頼っていた科会運営の事務的仕事から卒業生の負担を減らすために、専任の事務局長を置く新たな科会事務局体制を立ち上げた際、初代事務局長に就任して軌道に乗せ、科会の円滑な運営に大きな貢献をした。

- 科会初代事務局長

【草刈功労賞（振興）】

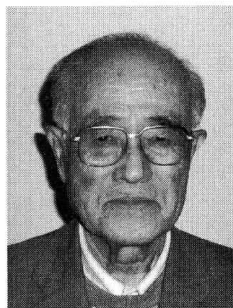
小野寺 瑞 穂氏
（昭和 29 年卒）

卒業以来科会幹事、会計監査、そして副会長を 15 年間務め、その後理事として現在まで科会活動を長期にわたって支えてきたほか、平成 4 年に盛大に開催された岩手大学電気科会創立 50 周年記念事業実行委員会副委員長として活躍したのをはじめ、科会の各種行事において中心的役割を果たして成功に導き、科会の運営に大きな貢献をした。また、一祐会副会長として工学部同窓会活動にも貢献した。

- 科会副会長
- 岩手大学電気科会創立 50 周年記念事業実行委員会副委員長

草刈功劳特別賞を受賞して ～50余年前を想う～

太田原 功（昭和 30 年電気卒）



平成 28 年 6 月 18 日、電気電子情報科会創立 75 周年記念式典にあたり、草刈功劳特別賞を受賞致しました。この受賞は、長年にわたって科会の諸事業を

支えて下さった数多くの会員各位のご支援の賜物であります。ご協力頂いた全ての方々に改めて厚く御礼申し上げます。

私は、昭和 30 年卒業、民間会社就職後僅か 1 年余で病に倒れ、闘病生活の後、昭和 32 年（1957 年）9 月草刈先生のお図らいで、岩手大学非常勤職員として転職させて頂きました。当初、電気工学科・沼田六七八技官の下で、電子顕微鏡操作補助と学生実験補助を担当。1961 年教育職に転じ、1997 年 3 月教授として停年退官するまでの 39 年半、そして退官後 20 年を迎える今日に至るまで、多くの先輩・後輩の方々と、公私を通じて親しくお付き合い出来る機会に恵まれたことを幸せに存じております。

昭和 34 年秋、山崎時男さん（専 8 卒）が山崎電気商会を設立して岩手大学を退職。電気科会の仕事が私の肩に重くのしかかって参りました。当時の会長は岡田整八さん（専 3 卒）。電気工学科在職の卒業生は一戸英敏先生（専 2 卒）、藤田勝美先生（専 5 卒）、高山宗三さん（昭 28 卒、40 年八戸高専に転出、教授で退職）、宮

田克己さん（昭 33 卒）と私の 5 人。宮田さんと私が主として科会の実務を担当。早速「きたかみ 13 号」の編集作業を宮田さんと二人で開始したのですが、編集途中の 35 年 3 月、宮田さんは鳥羽市の神鋼電機(株)に転出。その後、四苦八苦しがら昭和 35 年 5 月ようやく出版に漕ぎ付けました。山崎さんの在職中、科会の仕事を一身に背負っておられる姿を感心しながら垣間見ていたのですが、一転して自分の肩にかかって見ると、その重さに何度も打ちひしがれそうになった最初の仕事でした。私にとって、ほろ苦い思い出のある初編集「きたかみ 13 号」の主な記事を回想させて頂きます。

昭和 35 年（1960 年）1 月 1 日草刈先生第 4 代工学部長にご就任（註：36 年末まで 2 年間。42 年第 7 代工学部長に再選ご就任、43 年 7 月



ありし日の 3 巨頭（昭和 30 年頃？）

左から

入江 泰 先生 鎌田徳美 先生 草刈 遜 先生

5 日ご逝去)。1 月 16 日盛岡市内に大雪、市内バス全運休で大混乱。35 年 4 月 3 日科会総会を初めて東京で開催（東京水野会館 72 名参加、小生は都合により不参加）。

当時の教職員は上記の他に、大内三千三、鎌田徳美、入江泰、志田純一、佐藤淳、湧井源二郎の先生方。富樫泰規（事務担当）、田中博、高橋三吉、藤村勇一さんの各技官。4 月 1 日採用で飯岡圭輔さん（昭 33 卒、40 年一関高専に転出、教授で退職）、山家恒一さん（仙台電波高専卒）の名前があります。54 年前の懐かしい方々が思い出される記事が載っております。ちなみに、この号までが「手書きのガリ版刷り」でした。

昭和 35 年 4 月科会総会を初めて東京で開催、その後 37 年仙台、39 年青森、41 年東京、44 年仙台、・・・と、盛岡で開催の他にほぼ 2 年おきに東京と仙台で総会を行うことが慣例化して現在に至っており、科会活性化の大きな力になっております。

科会の運営面では、昭和 36 年から会計担当を分離して高山宗三さんが担当、38 年～飯岡圭輔さん（昭 33 卒）、40 年～関享士郎さん（昭 34 卒）、……。40 年頃には名簿担当を分離して齋藤弘さん（昭 34 卒）が担当、……。庶務担当は、私が 38 年 5 月から 10 ヶ月間東北大学に内地留学したのを機会に飯岡圭輔さんが引き継ぎ、39 年～吉田弘さん（昭 39 卒）、40 年～旗福寛さん（昭 38 卒）、……。これ以降の担当者ご氏名は割愛しますが、電気系学科在職の

全ての卒業生が次々に庶務・会計・名簿等の担当理事として科会活動に献身し、ご活躍されました。一方、このような科会の実務は在職卒業生にとって大きな負担となっていることから、1994 年（平成 6 年）専任の事務担当をおくことを総会で認めて頂いて初代事務局長に歳弘健さん（昭 33 卒）、2003 年からは柳橋好子さん（電子第 1 回、昭 45 卒）をお願いしております。長田洋さん（昭 62 卒・教授）と木村彰男さん（平成 3 情報卒・准教授）のお二人には、卒業生並びに教職員・在学生との連携を緊密化するための事務局長補佐役（理事・事務局）として、長年にわたって献身ご活躍頂いております。なお、科会の名簿処理は、創設以来名簿担当者の手書き処理に託されており、大きな負担となっていたのですが、久保田賢二さん（昭 42 卒）が名簿のコンピュータ処理化を初めて実現、一祐会と統合した名簿のコンピュータ処理化の基礎をも築いて下さったことを特記しておきます。

「きたかみ 13 号」発行から 5 年後の昭和 40 年 3 月、「きたかみ 16 号」が発行され、次の方々の新採用が掲載されております。42 年電子工学科新設、50 年には情報工学科が新設される等、電気系 3 学科体制に向けての準備が整いつつあった時期に採用され、ご活躍された方々であります。

39 年 4 月 1 日採用技術職員：高橋勝彦、沼田徳重、吉田功、加藤昭二（以上、盛岡工業高校卒）。小笠原敏（盛岡市立高校卒）。事務職員小野寺憲子（関東学院短大卒）。講師：佐川吉

受賞者から

男（26年東北大電気卒）。助手：佐々木雄介（38年防衛大学校卒）。教務員：吉田弘、庄子幸男（以上、岩手大電気卒）。39年5月1日助手採用：関享士郎（昭34卒）。39年7月1日助教授採用：百足恒彦（昭30年東北大電気卒）。一方、退職された2名の方がおられました。39年1月山家恒一氏日本コロンビア仙台営業所に転職。39年3月31日大内三千三先生停年退官。

次に、科会設立から現在に至るまで、科会関連の重要と思われる事項11件を抜粋しておきます。

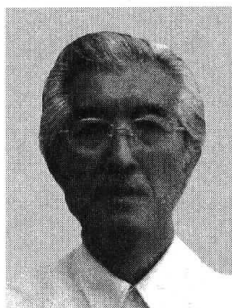
- (1) 1942年（昭和17年）1月1日盛岡高工電気科会発足、昭和17年2月会誌第1号発行。僅か1年余の間に第5号まで発行（18年5月）。終戦の翌年、昭和21年12月には早くも第6号を発行。
- (2) 1949年（昭和24年）学制改革によって岩手大学工学部誕生。（機械、電気、鉱山、金属の4学科編成。各学科入学定員30名）。
- (3) 1951年7月28日電気科会第1回総会開催、「岩手大学電気科会」と改称（戦中戦後の混乱期で「盛岡高工電気科会」総会を開催出来ずに経過）。
- (4) 1968年（昭和43年）5月岩手大学大学院工学研究科修士課程発足。
- (5) 1972年3月科会創立「三十周年記念アルバム」発行。
- (6) 1992年科会創立50周年記念事業実施：記念誌“炎”並びに記念名簿発刊。1992年6月6日記念祝賀会（ホテルメトロポリタン盛

岡で260名参加）。

- (7) 1996年（平成8年）4月岩手大学大学院工学研究科博士後期課程発足。
- (8) 1999年（平成11年）6月12日、平成11年度総会（仙台市五橋会館）において、「岩手大学電気科会」を「岩手大学電気電子情報科会」と改称。
- (9) 2003年（平成15年）科会創立60周年の年：「草刈先生ご生誕100年記念事業」を実施。2003年6月3日仙台市で草刈先生を追悼し、思い出を語り合う。草刈先生の胸像（専1、佐藤利三郎氏寄贈）を工学部玄関ホールに建立。学部卒業生を対象に「草刈賞」を創設（平成28年度で第14回、計41人受賞）。
- (10) 2011年（平成23年）10月29日電気電子情報科会創立70周年記念祝賀会開催：東京支部の全面的なご協力によって私学会館「アルカディア市ヶ谷」に173名が相集い、大盛会であった（実行委員長：寺井正行氏・昭41卒、支部長：澤藤隆一氏・昭47卒）。70年を支えて来られた18名のご生存の方々に、科会として初めての感謝状と記念品を贈呈（創立70周年記念特集号「きたかみ58号」参照）。
- (11) 科会総会実施年月日：創立50周年記念誌“炎”に第1回～第41回を掲載、第42回～第62回を「きたかみ」60号（2014年3月発行）に掲載。39年8月盛岡、仙台、東京以外では唯一、青森市で開催（会長：高木三郎、青森支部長：木村元一、庶務・会計：飯岡圭輔）。

草刈功労賞を受賞して

長 岐 芳 郎（昭和 34 年電気卒）



平成 28 年 6 月 18 日(土)
(2016) 岩手県公会堂にて
岩手大学電気電子情報科
会創立 75 周年の式典に於
いて、草刈功労賞を頂き大
変光栄に存じます。

第 7 代東京支部長として平成 8 年（1996）から平成 10 年（1998）までの短期間（一身上の都合により 7 年間関東を離れる）でありましたが東京支部会員の皆さん、当時役員の方々の御協力により無事に終了させて頂きました。

在学中は恩師草刈教授には就職先の選定から、技術者としての生き方をご指導頂きました。就職後も毎年会社を訪問いただきました。この時は会社役員と懇談会をさせて頂き、新入社員でありながらその様な場を作って頂いた先生の思いやりを今なお感謝しています。

この草刈賞の存続を願い佐藤淳教授のご寄付があり、この恩恵により今回受賞できました。そして在学中、社会に出てからも佐藤淳教授にお世話になり感謝しています。

その後、岩手大学地域共同研究センターが岩手県における産・学・官の研究協力態勢の一層の充実とその積極的推進をはかるため、平成 5 年（1993）4 月に設置され、平成 7 年（1995）3 月にはセンター棟の完成を見ました。

この研究センターの業務内容の一つに内外の

大学、公的研究機関、民間企業との共同研究があげられました。

私の同期である齋藤弘教授の推薦により協同研究プロジェクトの一つとして平成 9 年（1997）4 月から工学部電気電子工学科客員教授として「超高分解能光スペクトル分析システムの構成法」の研究をさせて頂きました。この時に、学生諸君の若さと真剣さに触れ勉学の尊さに感激したことを思い出しています。

昭和 55 年代（1980）は日本電信電話公社をはじめ装置、電線メーカーなど関連企業が一丸となって全国同軸基幹回線の光化に取り組んだプロジェクトが計画されました。北海道から九州まで全国縦断光幹線網を世界に先駆けて完成させました。その後、世界各国で光通信時代がスタートしました。さらに情報通信産業がコンピュータ産業との融合により革新がはかられました。

この時代と現在の世界環境があまりにも変化が激しく比較するのは考えにくいですが、明らかに今は凋落化の方向と考えざるをえません。

その原因はインターネットの出現、もの作り体制（研究・開発・製造）が国境を越えグローバル化したためです。この状況の打開には産・学・官一体の努力がなされておりますが更なる新体制の構築が必要になると思います。

草刈功労賞を受賞して

歳 弘 健 (昭和 33 年電気卒)



岩手大学電気電子情報科会創立 75 周年まことに
おめでとうございます。この
期に草刈功労賞の表彰
を受けましたことは、身に
余る栄誉と存じ感激して

おるところでございます。

私はもともと盛岡出身なので地元の大学を選
ぶと言う安易な気持ちで岩手大学工学部電気工
学科に入学いたしました。卒業後も地元の岩手
県庁に就職し、職場の先輩諸氏に見習い科会の
集会に出るようになりました。地元ということ
でたびたび「きたかみ編集」にたずさわり、大
学に足を運ぶようになりました。そのうえ幹事
などの役職に任せられます責任を感じるよ
うになりました。以後在任中に特に感じたこと
を綴らせて頂きます。

平成 4 年岩手県庁を定年退職してようやく体
も激務から解放され落ち着いたころ「電気科
会創立 50 周年記念誌」の編集委員に任せられ、
25 回の会合を重ね発刊することができました
が、制作・編集から装丁に至るまで、今までに
ない内容の素晴らしい記念誌を作り上げたリー
ダーの、当時情報工学科教授の太田原功さん(昭
30 年電気卒)の活躍に感激いたしました。そ
の他の編集委員も熱い情熱をもって任にあた
りました。

平成 6 年に至り、電気科会の事務担当は学内
の卒業生である教員が担当しておりましたが、

卒業生の増加により限界に来ているとのこと
で。役員会で検討した結果、事務局を学内に
置き電気電子・情報の両科から 1 名づつと、学
外から 1 名に事務を担当させることに決定し
ました。学外担当者は卒業生と言うことで私に委
嘱されました。

事務局長を拝命してから 2 年目の平成 8 年の
役員会で「科会のあり方」について審議される
ようになりました。これは昭和 24 年大学発足
当時は電気工学科のみであったものが、昭和
41 年に電子工学科が、昭和 50 年に情報工学科
が誕生し、その後平成 4 年の学部改組で電気・
電子は併合され電気電子工学科となり、情報工
学科は情報システム工学科に改変されました。
ところが同窓会の名称は「電気科会」のままだ
たのです。学生のあいだ特に情報工学科では科
会の名称に違和感があるとのことでした。平成
9 年の役員会で「科会のあり方検討委員会」が
組織されました。検討の内容は①学生に対する
アンケート調査、②全教官の意見聴取、③卒業
生に対する意見聴取をとり行い、若干の異見も
ありましたが、検討の結果科会の名称を「岩手
大学電気電子情報科会」に改名することを提案
しました。これが採用され現在に至っておるの
です。

平成 14 年に「草刈先生ご生誕 100 年記念事業」
の発起人会が結成され、平成 15 年春から事業
実行委員会を発足させました。会場が仙台なの
で科会仙台支部の皆さまにこぞって役員になっ

て活躍して頂きました。平成 15 年 6 月 29 日に草刈先生の追悼供養法要を輪王寺で、思い出を語る会をホテルメトロポリタン仙台で行いました。一方草刈先生胸像を工学部 1 号館玄関ホールに建立しました。さぞかし我々後輩を見極めておることでしょう。同時に草刈賞を制定し毎年学部卒業生に対し表彰することになっていま

す。また科会に功労のあった方々に草刈功労賞を贈ることになっており、今回晴れて表彰して頂き、よろこんでお受けさせて頂きました。ありがとうございました。おわりに岩手大学電気電子情報科会の益々の発展を祈念して筆を擱きます。

草刈功労賞を受賞して

小野寺 瑞 穂 (昭和 29 年電気卒)



平成 28 年 6 月 18 日、電気電子情報科会創立 75 周年記念ならびに平成 28 年度総会の席上で、荣誉ある草刈功労賞を頂戴し身に余る光栄で御座います。孫

子の代まで大切に遺し、生涯の記念に致したいと思って居ります。

何せ非才の身、科会のお手伝いも思うにまかせず、副会長の席を穢して参りました事を恥ずかしく思っております。

顧みますと昭和 60 年、13 代池野科会会長の御勇退の後をうけ、専門 7 回卒の安保寅丙氏に 14 代会長のご就任をお願い致しましたが固く辞退され、困惑しておりましたところ、最後は「小野寺君と一緒に副会長をやってくれたなら」の一言でお引き受け頂きました。

先輩でもあり、某工場の電気主任技術者から

建築会社役員に転身されて、仕事上でもお世話になり、ご昵懇にして頂いていたご縁もあり、否も応もなく、これにて一件落着、安保会長体制が出来たわけです。

しかし、それも束の間、就任一年もたたずにあのラガーマンの逞しい体躯と、再びお目に掛ることが出来なくなるとは、夢にも考えられませんでした。

以後、15 代針生俊夫会長、16 代佐々木浩会長 (元副知事)、17 代細川哲男会長、18 代太田原会長 (一期) まで、6 代・16 年余に亘り、副会長として代々お仕え致しました。会長交代期には、恒例の如く副会長は留任が続いた事になります。お陰様で、会長諸先輩方には、いろいろとご指導賜りました事を深く感謝申し上げます。旅立ちを急がれた元会長の皆様方のご冥福をお祈りいたします。

他に、平成 4 年開催の「岩手大学電気科会」

受賞者から

創立 50 周年記念事業実行委員会副委員長に任命賜り、式典行事の進行に携われたことも、思い出に残るものでした。

また、23 年秋。岩手大学電気電子情報科会創立 70 周年記念事業にあたり、(特にも祝賀会の開催、企画・運営に並々ならぬご尽力を賜りました東京支部の皆様方には敬意を表するばかりですが) 小生も実行委員の一員として末席に加えさせて頂きました。私事で恐縮ですが、記念式典開会に先立ち、東日本大震災の被災者の皆様へ痛恨の黙祷を捧げました。席上に二戸保育園児の合唱を捧げ、海外から送られた励ましの詩、鎮魂の方言詩(岩手弁バージョン)を朗読させて頂いたことが、望外の喜びでありました。

聞けば、偶然にも NHK ラジオ番組「私も一言!! 夕方ニュース」から流れた「がんばれナラの木」の詩を耳にされたのが仙台支部長齋藤健氏でありました。早速実行委員会へ提案され実現されたものであり、即断によるご推挙に感謝申し上げます。

思い出しますと、新制大学とは言え、進駐軍によって撤収された校舎は、返還されたもののペンキの匂い漂う艶やかな壁画? が残されてたり、各棟を貫く通路は寒風が容赦なく吹き抜ける寒々としたキャンパスでした。裏手には野球場と云えるのか? 背丈の雑草が伸び放題、田圃には NHK のアンテナが天を衝き、北を望むと岩手の秀峰が眼前に迫っていました。

寒いと云えば、冬の実験室。オーバーを着こんだりして寒さを凌ぎ、僅かばかりの電線もチマチマと大切に使い、手に入らない工具や測定器は手作りと云う有様でした。

私たちは入学して、電気工学科科長の草刈先生は東北大学工学部の教授を兼務され、毎週の後半には、汽車で仙台盛岡間を往復されていることを知りました。官舎は、正門を入れて左手奥に見える木造住宅であったと記憶しています。戦中戦後の劣悪な環境の中、自炊生活を送られたのならどんなにかご難儀なされたことでしょうか。今にして思えば享年 64 歳と云う早過ぎたご逝去でした。

岩手大学の発展に努力され、学生の教育に力を注がれ、毅然としたお姿には近寄りがたいものを感じておりましたが、反面卒業期には、最後の一人が就職するまで心配する慈父のような姿がありました。今、思いがけず草刈功労賞の額を手にし、先生のレリーフを見詰めていると、玄関正面ホールの胸像のお姿と、在りし日の面影がオーバーラップして参ります。

現在、岩手大学は昔日の面影はなく、素敵なキャンパスに姿を変えました。工学部卒業諸兄も、全国各地で企業を中心として活躍され、又、先生方も海外の大学や、研究機関に派遣され国際的な視野を身に着けるべく勉学に励んでいるとお聞きしました。地元にあっても産・学・官と連携、新技術の開発に力を発揮している方もおいでです。草刈先生始め、歴代先生方によって築かれた気風・校風を世に示す日が、必ずや来るものと信じます。

此の期にあたり岩手大学の更なる発展と、理工学部の益々の隆昌を期待いたしますと共に、75 周年連綿と続いた【電気電子情報科会】が、80 年 90 年 100 年と同窓生を繋ぐ絆として発展を続けられますように。

—退職した先生からの寄稿—

ものづくりを教育の中心に

千葉 則 茂 (昭和 50 年電気卒)



同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、平成 28 年 3 月末をもちまして、岩手大学を退職致しました。4 月からは、主に岩手県のものづくり産業に貢献するための職業能力開発を目的

とした岩手県立産業技術短期大学校長として勤務しております。本校の初代校長は太田原功先生 (S30 電気) で、その後、第 3 代池田俊夫先生、第 4 代齋藤弘先生 (S34 電気)、第 6 代馬場守先生と電気系学科で教鞭をとられた方々が務めておられ、また科会員 11 名を含む岩手大学卒の教員や、名誉教授の非常勤講師など、岩手大学から本校への貢献には大きいものがあります。さらに、科会員からは吉田英夫先生 (S41 電気) が電子技術科の非常勤職員・講師として、久保田賢二先生 (S42 電気) には物理の非常勤講師として、長年にわたりご尽力頂いております。

退職ということで、平成 28 年度科会仙台支部総会と東京支部総会の併設講演会にお招きいただき、ものづくり教育についての私見いっぱいのお話提供を行わせて頂きました。そこで、ここでは、これらの講演や退職記念講演で取り上げたものづくりに関連する思い出話の“公開可能な部分”について歯に衣着せて書かせて頂きます。なお、ここでの“もの”は硬いものばかりではなく、柔らかいものも含まれます。

大学時代：電気工学科に入学したのは、昭和 45 年 4 月です。大学在籍中とその前後を含めて以下のようなことが印象に残っています。いつの時代にも、若者にはショッキングなことが多く起きているのかと思いますが、いろいろ不安を感じる時代でした。

／東大安田講堂攻防戦 東大入試中止／高野悦子自殺 (「二十歳の原点」)／フランシーヌ焼身自殺／石牟礼道子「苦海浄土 わが水俣病」出版／松尾鉦山倒産／よど号ハイジャック事件／三島由紀夫割腹自殺／高橋和己 (「憂鬱なる党派」) 死亡／全日空機零石衝突事故／宇井純「公害原論」公開自主講座開講／福島第一原発

営業運転開始／あさま山荘事件／沖縄返還／日中国交回復／川端康成自殺？／三菱重工爆破事件／ベトナム戦争終結／集団就職列車廃止／

卒業は“5 年後”の昭和 50 年 3 月になり、同期生は 2 年にわたることになりました。研究室は、志田純一先生、三浦守先生 (S37 電気)、関享士郎先生 (S34 電気) の電力応用工学講座でした。「北社」にも書かせて頂きましたが、この 5 年目の研究室活動が情報系の教育研究の道へ進む、また教育におけるものづくり体験の重要性に気づく良い刺激となりました。それは、まず学科に新しく入ったミニコン OKITAC4300C を使うための FORTRAN を久保田賢二先生による説明会で学び、デジタルコンピュータなるものを初めて使い感激したことです。また、4 年に 1 度開催の電気展というオープンキャンパスのようなものがあり、そのための出しものを研究室仲間と作ったことです。今でいう PBL (Project-Based Learning) 型のものづくり体験です。さらに、関先生のもとでの卒業研究においても、実験装置作りや、理論値計算のためのプログラム作りを行ったことが、研究活動の面白さを忘れられないものにしてくれました。

会社時代：プログラミング体験から情報サービス企業である日本ビジネスコンサルタント (NBC、現日立システムズ) に入社しました。配属部署は社員教育の実施と企画を担当するところでした。オイルショックの時代で、採用取り消しや自宅待機なども行われた会社もあり、同期入社には、著名大学の修士修了者も多く、中には博士修了者もいました。また、先輩の小原左武生さん (S37 電気、現在仙台支部) が勤めておられ大変お世話になりました。最初の頃の仕事は、全国の HITAC ユーザ企業さんも対象とした新入社員教育で、HITAC8000 / M シリーズのアセンブラの講習でした。“日の丸コンピュータ”の時代で、デッドコピーという用語も流布し、OS もアセンブラも IBM360/370 のそれと同じ仕様のものでした。技術者としてはこの“類似性”については不安を感じていました。3 年ほど勤め、研究への想いが強くなり、まずは大学院へ入ろうと思いましたが、この頃、アセンブラで書かれた小さなカードペー

スの OS のソースコードが載っているドノバンの OS の本に出会い、多くの解説本を読むより、小さくとも実際に動くもの＝プログラムを見る方がずっとすっきりと理解できるということが分かりました。大学院で、ビルトのアルゴリズムの本に載っている Pascal で書かれた Pascal もどきの PL/0 という小さなコンパイラのソースコードを読んだ時もそうでした。

大学院時代：東北大学の情報工学専攻に入学できましたが、その前の年には受験勉強のために、再び、電力応用工学講座に半年ほど潜りで出入りさせて頂き、ご迷惑をおかけしました。東北大学の大学院には、大学入学時の同期で、すこぶる優秀な大蒔和仁君（S49 電子）がすでに博士課程に在籍していましたが、私の入学とは入れ違いで修了し、電総研へ入所して行きました。私が配属された研究室は回路網学講座で、斎藤伸自教授と西関隆夫助教授がおられ、研究は回路網学から展開されたグラフアルゴリズムの分野で、離散数学と関係の深い理論研究でした。新しい分野で、過去の多くの論文を読む必要がなかったことは私向きで、博士課程修了までに、10 編ほどの論文の執筆を指導して頂きました。

博士課程にいた頃、会社時代に感じていた不安が、“IBM 産業スパイ事件”として現実のものになりました。FBI のおとり捜査で日立と三菱の社員が逮捕されたことですが、アメリカではおとり捜査が許されているということにも驚きました。

大学院入学当初から、仙台のコンピュータ専門学校で非常勤講師のアルバイトをしていました。その時に、村岡一信先生（H11 電情博、現在、東北工業大学教授）と出会い、後に CG の研究へ進むきっかけにもなりました。

教員時代：大学院修了後、おなじ研究室で 2 年間助手としてお世話になりました。その後、仙台電波工業高等専門学校（現、仙台高等専門学校）に助教授として 1 年間勤務させて頂き、その後、岩手大学に拾って頂き退職まで勤務させて頂きました。助手にして頂くときには、斎藤先生から研究テーマを変更することを勧められ、西関先生には応援して頂きました。博士課程の頃に、CG を初めて使った映画「トロン」が制作され（今からみると、稚拙なときから“先端技術”を使うところがハリウッドのすごさと感心します）、またアルバイト先の専門学校では村岡先生がカリキュラムに CG を導入するときでした。さらに、自分は理論研究でしたが、学生の教育には就職後を考慮するともものづくり（この場合はプログラミング）を伴う研究が望

ましいだろうと、まだまだ全国的にも CG 研究者は少なく、特に東北は空白地帯でしたので、CG の道へ進みました。仙台電波では、大学と異なり、実践的技術者の育成という設置の趣旨がベースにあるということで、新鮮でした。ただ、その後、全国の高専では専攻科の設置が進み、教員は学位を持った研究者に限られ、企業経験の豊かな教員が減少していると聞き、またかなりの学生が大学へ編入をしているということで、少し残念な気もしています。

村岡先生や仙台高専の先生方とは共同研究を進めるとともに、CG やアルゴリズムのテキストの執筆も行いました。小さくとも実際に動くプログラムを示すというポリシーに基づき、専門書にしてはよく売れたと、出版社の編集者からは喜ばれました。

しばらく、情報系学科で教育研究を行って行く中で、大学のカリキュラムと多くの学生が就職する企業における業務との不適合が気になり始めました。例えば、工学部の学科であるということから、情報系の学生にも解析学が基礎科目としてありますが、自動車・組み込み企業からさえ、文系出身でも良いですと言われることが多く、“基礎科目”という常識に疑いを持つようになりました。また研究スタイルでは、学生が個々に個別のテーマで行うなど、期待されているチーム活動力の育成とは遠くはないか、また研究室配属以降、一人の先生の研究分野を長く学ぶことが良いことだろうかなどが疑問としてありました。そういうこともあり、大学院専攻として、環境デザイン、芸術デザイン、メディア工学からなるデザイン・メディア工学専攻の設置に関わりました。1 つの専門を専攻した I 型人材ではなく、近接関連分野も学んだ T 型人材の育成へ、またチームでものづくりを行う PBL を授業に取り入れ、協創的人材の育成を行おうというものです。また、大学院生の学位研究においてはチームでの研究スタイルも取り入れ、学生がチームでのものづくりに生き生きとする様子を見ることができました。これからは、ロボコンのように、多くの教育機関で課外活動として行われてきたものづくりを教育のコアカリキュラムに取り入れていく時期であると感じています。このような考えは、現職を務める心の支えにもなっています。

最後に、大変お世話になりながら本稿で触れることのできなかつた多くの方々に感謝して終わりにします。

電気電子通信コースの近況

システム創成工学科 電気電子通信コース長 西 館 数 芽

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

工学部が理工学部へと変わり、学科名もシステム創成工学科のなかの電気電子通信コースとなりました。入学定員は特別コースを含めて63名です。学部名ですが理工という具合に「理」がついたことは、エンジニアリングにサイエンスを取り込もうという作戦でもあります。

電気電子通信コースの教職員の異動についてご報告します。5月に阿部貴美先生が助教として着任されました。阿部先生はワイドギャップ半導体である ZnO 薄膜の作成と構造解析がご専門です。9月には向川政治先生と本間尚樹先生がそれぞれ教授に昇任されました。また同月には三浦健司先生が准教授に昇任されました。一方、成田晋也先生（教授）は物理・材料理工学科の数理・物理コースに異動されました。代わりに旧マテリアル工学科から菊池弘昭先生（准教授）が本コースに着任されました。菊池先生は磁気利用センシングとそれを応用した非破壊検査がご専門です。これらを含め、本コースは現在15名の教員（うち教授7名、准教授4名、助教4名）で運営されております。大学院も4月の改組が認められ、新年度からは総合科学研究科、理工学専攻、電気電子通信コースとして新たに船出することになりました。

平成28年3月の卒業生は電気電子・情報システム工学科（電気電子工学コース）として67名で、うち約6割が大学院に進学しております。また電気電子・情報システム工学専攻、電気系の修了生は39名でした。就職状況も好

調で、卒業生修了生の多くが早いうちに大手の企業から内定をいただいております。

コースについてのニュースをいくつかご紹介いたします。平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者として電気電子通信コースの高木浩一教授が受賞されました（4月、受賞タイトル「自然の中に潜む科学に気づき学ぶエネルギー教育の普及啓発」）。また5月には本コース1年生が、震災復興に関する現地学修のため宮古市田老地区を訪問し、防潮堤等を見学してきました。市職員からの説明の際には学生からも活発に質問がなされ、学生にとって復興について深く考えるきっかけになったようでした。9月には3年生の工場見学が実施され、関東方面としてフジクラ様、東洋電機製造様、アンリツ様、NTT docomo 様の工場見学到3年生が参加しました。見学先の企業では本学大学院を修了された先輩OBとの懇談会も企画され、学生からは「大変参考になった」、「仕事内容に関してより具体的なイメージがつかめた」などの感想が寄せられました。9月には本学大学院工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻修了生の伊藤陽菜さん（現一関工業高等学校）が2015年電気学会優秀論文発表賞を受賞しました。受賞論文は「エネルギー環境教育と電気回路を教材とした高等学校数学の授業設計」です。

大学と言う環境の元で学科名などの看板は幾度となくかわりますが、電気電子通信の分野において互いに切磋琢磨し、明日の岩手県を、明日の日本を担う優れた人材が巣立っていくよう我々スタッフ一同、努力する所存です。皆様におかれましては、これまで同様、是非、温かい目で見守ってくださるようお願いいたします。

知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科 知能・メディア情報コース長 今野 晃 市

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平成28年度の本コースの近況をお届けします。

今年の4月に、改組により理工学部システム創成工学科がスタートしました。本コースは、そのなかの「知能・メディア情報コース」として、新たに61名の1年生を受け入れました。平成29年度には、修士課程が改組される予定です。その後、博士課程までの改組計画について順次議論している状況です。

研究面においては、学生や修了生を中心とした研究発表等に関して、以下のような多くの受賞がありました。学会名、受賞名、受賞者、研究題目などを以下に示します。

- [1] 日本情報考古学会論文賞、村木祐太、アルタンツェツェグ・エンフバヤル、千葉 史、松山克胤、今野晃市、多数の遺物を一括測定可能なレーザー型自動計測システム、(2016.10)
- [2] 芸術科学会論文賞、Mayumi Chida, Syunya Kanno, Yutaro Obara, Norishige Chiba, A Study on Image Expressions for Augmenting Street Dances and Their Matching, (2016.11)
- [3] 芸術科学会論文賞、Takahiro Daimon, Tadahiro Fujimoto, Interactive Video Editing for Occluded Object Using Synthetic Aperture Imaging, (2016.11)
- [4] NICOGRAPH 2017 優秀論文賞、X.Yang, K. Matsuyama, K. Konno, A New Method of Refitting Mixture Lithic Materials by Geometric Matching of Flake Surfaces, (2016.11)

吉森准教授と山中助教が、International Symposium on Optical Memory 2016、と電子情報通信学会「回路とシステム研究会」にて、

それぞれ招待講演を実施しました。どちらも、学会から高い評価を受けた研究の成果だと思えます。

また、平山貴司講師らのグループが中心となって活動している、ETロボコンについてですが、今年度は、ETロボコン2016 東北地区大会において奨励賞を授賞しました。ロボットの研究開発は、注目度が高いことから今後一層の活躍が期待されます。

国際交流も活発に行われました。研究高度化・グローバル化特別対策室の支援により、本コースの教員が中心となってタイとモンゴルとの交流を実施しました。吉森久准教授は、タイのカセサート大学と交流協定を締結しました。今野、藤本教授、明石准教授は、モンゴルのモンゴル国立大、モンゴル科学技術大、人文大を訪問しました。今年度は、タイから3名、モンゴルからは7名の留学生を受け入れました。タイとモンゴルは重点的に交流する必要のある国ですので、今後の留学生受入も積極的に進めていく予定です。

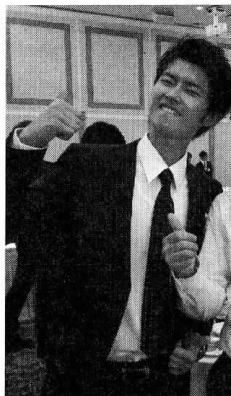
人事では、西谷泰昭教授と三輪譲二准教授が今年度を持ちまして定年退職されます。また、藤本忠博准教授が4月に教授へ昇任されました。

最後に、本コースは、システム創成工学科知能・メディア情報コースとなりましたが、社会の要請に応えられるコースとして、教職員一同なお一層の努力をしていく所存です。つきましては、会員の皆様には益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

— 草刈賞 —

第13回（平成27年度）草刈賞受賞者

電気電子工学コース 佐藤 駿 至

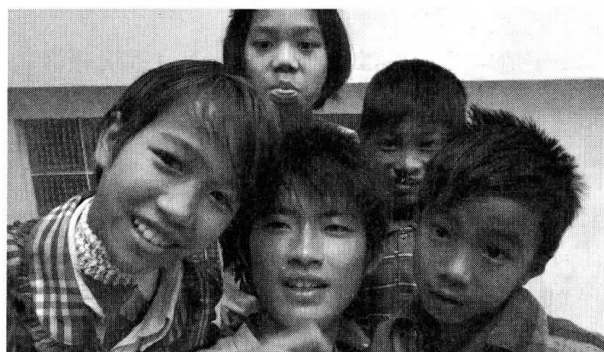


私が草刈賞を受賞してからもうすぐ1年が経ちます。伝統ある草刈賞を頂けたことを大変光栄に思っております。私は大学生活の中で行動力を大事にしようと心がけて生活を送りました。テニス部の部長として部員を統括し切磋琢磨し合ったこと、ミャンマーの医療ボランティアで異国の人と触れ、発展途上国の医療の現状を目の当たりにしたこと、どれも自分を成長させてくれた大変貴重な経験でした。

就活の際にはミャンマーのボランティアがきっかけで医療業界への就職を目指し、現在はメーカーの医療部門で働いています。社会人になり働くことの大変さを強く感じています。しかし、大変な中でも充実感ややりがいを感じながら日々を過ごしています。

後輩の皆様には是非今しか出来ないことを精一杯やって欲しいと思います。やりたいことは勇猛果敢に挑んで下さい。そして思いっきり大学生活を楽しみ、卒業後に最高の大学生活だったと思えるようにして下さい。卒業生として皆さんのことを心から応援しております。

最後に、これまで支えてくださった家族、先生、先輩、後輩、友人、岩手大学へ感謝し、これからも日々精進していきます。



ボランティア先のミャンマーで出会った子供達

《草刈賞の趣旨》

草刈先生は旧電気工学科を中心として、岩手大学の基礎を築かれた方である。先生のご業績を称え、後世にその教えを伝えるために、電気情報系コース卒業生の中から、意欲的な学生生活を送り後輩の模範となる学生に草刈賞を授与することによって、学部学生の向上心を啓発することを旨とする。



草刈メダルと賞状

《支部だより》

平成 28 年度東京支部報告

東京支部長 田 中 健 二 (昭和 49 年電子卒)

平成 28 年度の東京支部大会は、10 月 22 日 (土) に、恒例となった新宿サンパークビル本館 7 階大ホールで開催されました。

旗福 寛会長および「岩手大学電気電子情報科会創立 75 周年記念式典 (6 月 18 日、本部総会同日に開催)」において草刈功労賞を受賞された長岐芳郎氏 (電気 S34 卒) にご挨拶をいただきスタート。

講演会は、岩手県立産業技術短期大学校長 / 岩手大学名誉教授の千葉則茂先生に「研究者育成からモノづくり人材育成へ」のタイトルで講演していただきました。大学の役割に関わる身近な問題で熱心な質疑があり好評でした。

懇親会は、上記記念式典で、「草刈功労特別賞」を受賞された太田原 功先生に、乾杯の御発声とともに、一祐会来賓としてのご挨拶をいただきました。

今年度のテーマは、「今を生きる (近況報告)」で、太田原 功先生をはじめ、参加者の方々に、近況や、日頃の思い、学生時代の思い出などを語っていただきました。また、内山和彦氏 (電子 H02 卒) にお願ひし、実現した尺八演奏も素晴らしく、恒例の逍遥歌、同袍寮歌、学生歌合唱まで、時間の経過を短く感じる充実した会となりました。

以下支部大会で紹介された役員活動報告の一端を紹介します。

(1) Facebook 利用によるコミュニケーション活動の強化：

前回の支部大会 (H27 年 10 月 24 日) 以降、支部から多くの投稿を行い、会員コミュニケーションの促進に役立てております。

代表的な投稿

・支部大会の中継投稿 7 件

反応：いいね！ 19 件

・支部メンバーの盛岡訪問記

(H28 年 2 月 12 日下記 (2) 参照)

反応：いいね！ 6 件

・吉澤和弘氏 (情報 S54 卒) 株式会社 NTT ドコモ社長就任記事のシェア

反応：いいね！ 11 件 など。

(2) 新正会員および現役生とのコミュニケーション向上を目指し大学訪問実施 (H28 年 2 月 12 日)：

・長田 洋先生の研究室で、学生に東京支部の活動などを紹介するとともに、彼らの首都圏での就職に対する期待と不安に対し、アドバイス提供。

・松山克胤先生からは研究の内容の紹介や学生の研究発表会に招待いただきました。

(注) 平成 29 年度の支部大会は、本部の総会と合同で、6 月 24 日 (土) に東京で開催します (詳細別途通知)。

科会東京支部 Facebook
アクセス用 QR コード：
※新ホームページからも
アクセス可能です



新ホームページ URL : <http://iueei-tokyo.main.jp/>



《支部だより》

平成 28 年度仙台支部報告

仙台支部長 数 藤 崇 (昭和 52 年電気卒)

平成 28 年の支部活動は、平成 28 年 1 月 23 日 (土) の役員会+新年会からスタートいたしました。役員会では年間スケジュールの確認と 4 月に予定される「長寿を祝う会」の進め方について議論し、その後参加者 13 名にて新年会を行い、情報交換と親睦を深めました。

4 月 16 日 (土) は役員会にて 6 月開催予定の支部総会の準備確認事項を実施した後、第 8 回「長寿を祝う会」を開催いたしました。長寿者として電気 8 回生の古村光氏と松岡俊司氏の 2 名の参加により、参加者 19 名で実施しました。両氏からは、当時の思い出を含めたスピーチを頂きました。その後、同会場にて 51 年電気卒の佐藤良司氏によるチェロ生演奏で祝いの会に華を添えていただきました。

総会は、ご来賓として旗福会長をお迎えし 6 月 25 日 (土) ハーネル仙台において開催されました。議事として H27 年度事業報告・決算報告及び H28 年度事業計画等の審議のあと支部役員の改選についても原案どおり承認されま

した。これにより、新支部長と新副支部長 2 名、監事 2 名の新たな体制で支部活動を推進してまいります。

総会に引続き 2 名の先生による「講演会」を開催しました。

講演 1 「ものづくり教育を志してきて」

岩手県立産業技術短期大学校長
千葉 則茂氏

講演 2 「ワイドバンドギャップ半導体 ZnO
デバイスの開発」

岩手大学理工学部システム創成工学科
助教 阿部 貴美氏

両先生には、懇親会にも出席いただきました。

仙台も地下鉄東西線が開通してもうすぐ 1 年になります。これとあわせて仙台駅や東口方面では商業ビル建設、道路整備、マンション建設等の開発が推進されており、ますます東北に於ける政令指定都市としての存在感を大きくしております。



《支部だより》

平成 28 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 久保田 賢 二 (昭和 42 年電気卒)

支部総会は平成 28 年 6 月 18 日、本部総会と同じ岩手県公会堂 26 号室で本部総会に先立ち午後 2 時から行われました。平成 27 年度会計報告は異議無く承認。次いで役員改選では、会計を長年努めて頂いた及川二千朗氏 (S38 電気) から伊東寿勝氏 (H1 電気) へ交代、及川氏は会計監査に就任、会計監査は留任の立花龍一氏 (S61 情報) と 2 名の提案がなされ、異議無く承認されました。

本部と共催の新年会は次の通り行われました。

日 時：平成 29 年 1 月 28 日 (土)

午後 3 時～5 時

場 所：岩手県公会堂 21 号室

会 費：4000 円

参加者：37 名

以下に新年会の様子を紹介します。

写真撮影の後、最初に旗福寛会長から「本年 1 月 1 日は本科会創立 75 周年記念日だった。平成 23 年に東京支部の絶大なるご協力を頂いて 70 周年記念式典並びに祝賀会が盛大に挙行されたが、75 周年記念式典は昨年 6 月 18 日に盛岡で総会と同じ日に行った」旨のお話とご挨拶がありました。次いで、昨年 3 月で母校を定年退職された千葉則茂先生 (S50 電気) に長年のご労苦の慰労と学生 (本会準会員) の育成に

感謝の意を表し、会長から花束の贈呈が行われました。千葉先生からは母校在職時を振り返り、母校の先生方は毎年のような改組で大変だと母校在職者を気遣いながらのご挨拶がありました。

そして乾杯ですが、ご発声は今年も工業教育に多大の貢献をされて来られた昭和 24 年ご卒業の太田圭一先生にお願いしました。太田先生が学生の頃は会費を徴収すれば物が買えて宴会がすぐできる状況ではなく、自分たちで飲食物を作るところからやらなければならなかった (酒も???) 云々の回顧談、そして声高らかに乾杯!!

歓談を挟んで太田原功氏 (S30 電気) から「佐藤淳先生へ甲意を表したかった」との多数の問合せに応え、有志で偲ぶ会を 4 月 22 日に計画中とのアナウンス、顧問の藤原民也先生から近況を交えたご挨拶、田中健二東京支部長・数藤崇仙台支部長から各支部の様子等々ご挨拶を頂きました。

宴たけなわの 4 時 45 分、千葉則茂先生後任の学内副会長恒川佳隆先生の音頭による一本締めの中締め、5 時半散会しました。

新年会は明年も 1 月最終土曜日の予定ですが、詳細は本部事務局にお問い合わせ下さい。



平成 28 年度岩手大学電気電子情報科会総会

平成 28 年度岩手大学電気電子情報科会総会は、6 月 18 日（土）、岩手県公会堂 26 号室で開催されました。

総会後に科会創立 75 周年記念式典を控えていたので、50 人という多数の出席でした。

1 月にご逝去された佐藤淳先生への黙とうの後、情報平成 3 年卒木村理事の司会で始まり、萩原義裕教授からご祝辞をいただきました。議長は電気 41 年卒の吉田英夫氏、書記に電情博平成 27 年卒高橋修三氏と情報 61 年卒立花龍一氏が選任されました。

吉田議長の進行により第 1 号議案から第 4 号議案まで事務局から説明がなされ、第 3 号議案の事業計画には今年度初めてのホームページ検

討委員会と創立 75 周年記念式典が提案され、すべて異議なく承認されました。

第 5 号議案の会則改定は、大学改組に伴うもので、改組がなされた日からという条件付きで承認されました。

第 6 号議案は役員改選で、副会長の電気 50 年卒千葉則茂氏と情報 56 年卒鳥谷部達雄氏が理事に、新副会長に電気 55 年卒恒川佳隆氏と情報 61 年卒立花龍一氏が、そのほかの理事は留任、また東京支部と盛岡支部の幹事各 1 名の入れ替えもあり、すべて承認されました。

その後、創立 75 周年記念式典へ会場を移しました。

平成 28 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日時：平成 28 年 6 月 18 日（土）14:20～15:10

場所：岩手県公会堂 26 号室

議長：吉田英夫氏（理事、電気 S41 卒）

書記：高橋修三氏（電情博 H27 卒）

立花龍一氏（理事、情報 S61 卒）

●第 1 号、第 2 号議案について

事務局より平成 27 年度事業 4 件（きたかみ 62 号発行、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動）について概要が報告された。関連して平成 27 年度の決算報告が行われ、続いて及川会計監査より監査報告が行われた。

議案は異議なく承認された。

●第 3 号、第 4 号議案について

事務局より平成 28 年度事業計画案（きたかみ 63 号発行、ホームページ検討委員会活動、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動、創立 75 周年記念式典）が説明された。

続いて事業計画を勘案した平成 28 年度の予算案について詳細説明が行われた。基金会計の収入の部、前年からの繰越金の額が前年度決算

と異なっていることが参加者から指摘された。転記誤りで 40 円少なく記載されていたので、正本は後日事務局が訂正することとし、議案は異議なく承認された。

●第 5 号議案について

大学改組に伴う科会会則の改定案について事務局より説明があった。来年度から大学院の電気情報系に 2 つのコースが新設される予定なので、この 2 コースを会則に追記する内容であった。総会の時点で改組は未確定事項であるので、「大学院総合科学研究科設置の日から」という条件付きで議案は承認された。

●第 6 号議案について

事務局より役員改選案が示された。

- * 新任の副会長に恒川佳隆氏（電気 S55 卒）、立花龍一氏（情報 S61 卒）
- * 元副会長の千葉則茂氏（電気 S50 卒）と鳥谷部達雄氏（情報 S56 卒）は理事
- * その他の役員については留任。さらに、東京支部と盛岡支部の幹事 1 名ずつの入れ替えについても説明があった。議案は異議なく承認された。

平成 28 年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(平成 29 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)
会 長	籾 福 寛	S 38 (気 11)	東京支部		
副 会 長	恒 川 佳 隆	55 (気 28)	幹 事	松 本 洋 一	S 40 (気 13)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	幹 事	薄 衣 文 雄	41 (気 14)
副 会 長	立 花 龍 一	61 (情 8)	幹 事	岡 山 茂 久	45 (気 18)
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)	幹 事	小 磯 巖 男	51 (気 24)
理 事	佐 藤 匡	40 (気 13)	幹 事	畠 山 主	54 (情 1)
理 事	吉 田 英 夫	41 (気 14)	幹 事	吉 澤 和 弘	54 (情 1)
理 事	武 田 寿 郎	41 (気 14)	幹 事	畠 山 寧	59 (子 15)
理 事	宮 手 敏 雄	44 (気 17)	幹 事	山 道 隆 男	62 (気 35)
理 事	千 葉 則 茂	50 (気 23)	幹 事	富 塚 秀 樹	H 2 (気 38)
理 事	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	幹 事	中 山 靖 茂	H 4 (気 40)
理事・盛岡支部長	久保田 賢 二	42 (気 15)	幹 事	遠 藤 慎 介	H 4 (子 23)
理事・仙台支部長	数 藤 崇	52 (気 25)	幹 事	三 浦 友 規	H16 (電電院)
理事・東京支部長	田 中 健 二	49 (子 5)	盛岡支部		
理 事・事務局	長 田 洋	62 (気 35)	幹 事	岡 英 夫	48 (子院 4)
理 事・事務局	木 村 彰 男	H 3 (情 13)	幹 事	池 内 達	50 (子 6)
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)	幹 事	佐 藤 信	57 (子 13)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11 (電情博)	幹 事	佐 藤 文 昭	59 (子 15)
顧 問	志 田 純 一	特	幹 事	泉 澤 栄	60 (子 16)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	高 橋 康 浩	62 (気 35)
顧 問	藤 原 民 也	特	幹 事	佐々木 眞 嗣	62 (子 18)
相談役 (元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)	幹 事	伊 東 寿 勝	H 1 (気 37)
相談役 (元会長)	山 崎 時 男	24 (専 8)	幹 事	鈴 木 順	H12 (電電 5)
相談役 (元会長)	阿 部 長 一	19 (専 4)	仙台支部		
相談役 (元会長)	太田原 功	30 (気 3)	幹 事	千 葉 浩 克	40 (気 13)
相談役 (元会長)	佐々木 喜八郎	28 (気 1)	幹 事	菅 原 利 一	55 (気 28)
相談役 (元会長)	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	55 (気 28)
			幹 事	佐 藤 雄 一 郎	H 3 (気 39)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H 9 (電電 2)

平成 28 年度システム創成工学科電気電子情報系名簿

平成 29 年 1 月 1 日現在

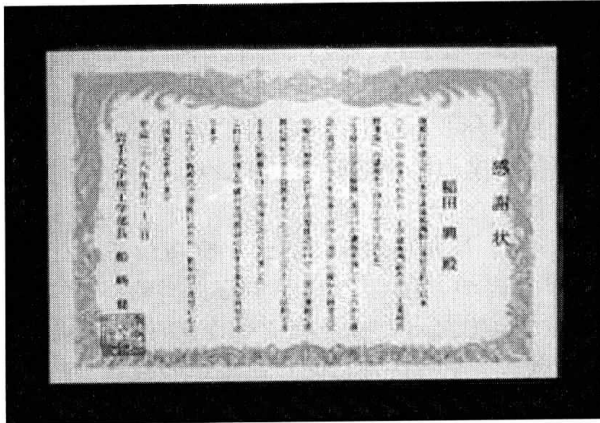
電気電子通信コース (コース長 西館数芽 教授)			知能・メディア情報コース (コース長 今野晃市 教授)		
職 名	氏 名		職 名	氏 名	
教 授	長 田 洋		教 授	安 倍 正 人	
教 授	小 林 宏一郎		教 授	今 野 晃 市	
教 授	高 木 浩 一		教 授	西 谷 泰 昭	
教 授	恒 川 佳 隆		教 授	西 山 清	
教 授	西 館 数 芽		教 授	萩 原 義 裕	
教 授	本 間 尚 樹		教 授	藤 本 忠 博	
教 授	向 川 政 治		准 教 授	明 石 卓 也	
准 教 授	秋 山 雅 裕		准 教 授	木 村 彰 男	
准 教 授	菊 池 弘 昭		准 教 授	金 天 海	
准 教 授	大 坊 真 洋		准 教 授	永 田 仁 史	
准 教 授	三 浦 健 司		准 教 授	中 谷 直 司	
助 教	阿 部 貴 美		准 教 授	三 輪 讓 二	
助 教	叶 榮 彬		准 教 授	吉 森 久	
助 教	佐 藤 宏 明		講 師	平 山 貴 司	
助 教	高 橋 克 幸		助 教	佐 藤 信 太	
			助 教	藤 岡 豊 太	
			助 教	松 山 克 胤	
			助 教	山 中 克 久	
			助 教	盧 忻	
			事務補佐員	懸 田 ひかる	

技 術 部					
	職 名	氏 名		職 名	氏 名
理 工 学 系 技 術 部	第一技術室長	太 田 康 治	情 報 技 術 部	技術室長	栗 田 宏 明
	第二技術室長	千 葉 茂 樹		技術専門職員	金 野 哲 士
	技術専門職員	那須川 徳 博		技術専門職員	田 頭 徹
	技術専門職員	志 田 寛			
	技術専門職員	千 葉 寿			
	技術専門職員	萩 原 由香里			
	技術職員	石 川 利 明			
	技術職員	多 田 静 香			
	技術職員	平 山 有 沙			
	技術職員	藤 原 步			
	技術職員	古 館 守 通			

理工学部長より感謝状

非常勤講師 稲田 興（昭和38年電気卒）

このたび「工業経営管理論」の担当講師を終えるにあたり、21年間の役割に対して船崎理工学部長より感謝状を拝受致しました。



振り返ると、この講座を担当したのが56歳の時、マレーシアの現地法人を立ち上げ軌道に乗せて帰国し、会社を定年扱いで退職、中部地区の通信機器メンテナンス会社を任されたばかりの頃だった。このきっかけは、海外生産の実体験を大学で講演したことに因ります。講座を開始する前に、それまでの経験やら関係資料を集めて半年がかりでテキストを作り上げた。テキストは法律の改定（例：独占禁止法、特許法）や新立法（例：製造物責任、リサイクル法）、及び社会情勢の変化に応じて毎年見直しをした。

若い学生達との触れ合いは、私に色々なことを教えてくれ、一方では常日頃からアンテナを高くして、色々な情報を収集して置く必要もあり、常に気持ちを若く保てたことには感謝したい。受講生は当初、息子ぐらいでしたが、今ではもう孫ぐらいの年齢になってしまった。

この間の経済環境は、バブル崩壊後、構造改革を余儀なくされた「空白の20年」といわれる先の見え難い時代。工業経営の立場から考慮すべきテーマとしては ①価値観の多様化 ②高度先端技術の急速な発展 ③高度情報化社会の実現 ④グローバルスタンダード ⑤ボーダーレス生産体制 ⑥少子・高齢化社会 ⑦地球環境問題 ⑧東日本大震災以降のエネルギー問題 ⑨世界情勢不安定、更には ⑩第4次産業革命とい

われるIoT等々、夫々の切り口から解説する必要があった。

私の経験した海外生産についてはVTRも見せながらしっかり学生たちに説明したが、この紙面を借りてもう少し触れてみたい。但し「きたかみ第61号」でも概要を掲載させていただいたので、重複しないように私生活などを中心に記載してみる。

実際の現地赴任期間は三年半であったが、計画段階から数えると5年ほどこの会社に直接関わった。二人の部下を引き連れて現地に乗り込んだのが51歳の時。最初に当惑したのはワーキングビザが必要だったことである。入国の時に引掛かった。しかし現地生産の対象がファクシミリ・小型電話交換機・自動車電話などまだマレーシア国内での生産がなされていない先端技術だったので、15名分の申請がそのまま認可された。これは後の現地設計化の際大いに役立った。

生産拠点は事前にアメリカ・メキシコ・中国・シンガポール・タイなどを調査したが、マレー半島の西側マラッカ海峡に浮かぶペナン島にある工業団地内に決めた。社会インフラが整備されており、治安が良いのとやはり人件費の安さが魅力だった。島とは言え半島との間に橋が架かっている上、首都クアラルンプールに次ぐ第二の都市ジョージタウンを包含している。国際空港から車で10分程の距離にあった空き地を政府から50年契約で借りることにした。

会社を発足させて工場建設にかかりながら、他社の空きスペースを借りて社員教育を兼ねたノックダウン生産を開始。3か月後には米国向けの製品を初出荷するという離れ業を演じた。

新工場を完成させ本格生産に移るまで、作業員の採用や教育、部品の調達先の決定や製造設備の調達など目まぐるしい毎日で、スタッフの面々には猛烈なチャレンジをし続けた。勿論日本からの支援も十分に行われ、当初計画通りに実現できたことは関係者の努力の賜物で、大いに感謝している。



実際の経営は異文化の中で初体験のことばかり、手探り状態で全くの白紙状態から一つずつ積み重ねて現地に根差した会社の仕組みを創り上げていった。

北緯5度熱帯雨林気候のこの地域は年中真夏で、年間の月別平均気温より一日の温度差の方が大きい。年に乾季と雨季が二度ずつ。雨季と言ってもスコールの頻度が多くなるだけ。日の出・日の入りは一年通して7時±20分位しか変わらない。また、方角としては日本とは真逆で北西が喜ばれる。日陰になる時間が長いからで、暑い国ならではの事。日没後の涼しい夜を大切に。番犬でさえ昼寝て、夜だけの活動である。東洋の真珠と呼ばれるペナン島のリゾート地も島の北西部に位置している。そういう意味で見ると熱い国々の国旗に月が多いのもうなずける。一方、あまりにも変化に乏しく記憶力の減退を余儀なくされる。思い出するためのキーフクターに欠けるからで、南洋ボケというものもこの辺から来るのであろうと思う。少し郊外に出るとパームツリーのプランテーションが展開されている。かつてはゴム林も多かったが今は廃れた。

半年間は現地に赴任した3名で一つ屋根の下の共同生活。その後移り住んだ家は300坪ほどの敷地に、バスタブ付の5ベッドルームと会議室に利用できるぐらいの大広間やバーカウンターそしてメイドルームなどもある物件を確保。床はすべて大理石。家の出入り口はどこも二重扉で外側は鉄製の格子戸、各部屋のドアにも鍵がかけられる。当初は日本から出張してくるサポーターの宿舎に充てたり、社内研修の場にしたり、社員の交流の場としてバーベキューパーティーを催したりと多岐に活用した。メイド・運転手・庭師の三人を個人で雇い、単身生活を送った。

自由な時間は大体ゴルフ場にいた。他には社内にはスポーツ同好会を作り、私はテニスとバドミントンで社員と一緒に汗を流した。対外試合などで知り合いになった人も多く、日本領事館員等と芝のコートでテニスを初体験できたことを覚えている。

果物は豊富で、果物の王様「ドリアン」や女王「マンゴスチン」などは年に二回収穫できる。家の庭にはマンゴーやパパイヤの木があり、マンゴーは年に二度、パパイヤは年中食べられた。ドリアンはすっかり虜になって、その時期になると知り合った友人の持ち山に入り込んで、その朝拾い集めた完熟のドリアンの品定めをしながら貪ったものだ。

昨年11月久しぶりにペナンを訪ねてみたが、25年も経つと隔世の感がする。当時ペナン省で最大規模だったウォークマンの主力工場（5千人規模）や隣接地にあった電卓の製造会社（2千人規模）などは既に蛻の殻。低賃金の労働力だけ求めて海外展開する所は中国やタイそして今ではベトナムやインドネシアを彷徨っているのではないだろうか。

21年の間で最大のピンチが2009年だった。それは妻の病気（舌癌）の悪化である。2年間の闘病を経て末期症状を呈し、明日をも知れぬ時に講義の日程が迫っていた。主治医からは危篤と宣告され、聞いても講義へ出かけるかどうかの判断は任せると言う。出発前昏睡状態の耳元で「行って来るけど、帰って来るまで頑張るんだぞ」と告げると微かに頷いた。この時の会話が我々夫婦の最後の言葉となってしまった。真の“後ろ髪を引かれる思い”で病院を後にし、何とか二日間（15時間）の講義を終えてとんぼ返り。それから2日後に息を引き取り、辛うじて臨終には間に合った。その後、葬式を出し色々な後始末をして、一か月後には当初予定通り再び教壇に立ち、表面的には何事もなかったように講義を続けることができた。

色々なことが回想されるが、この講座の窓口を担当された電気・電子の先生方並びに学務の方々には大変お世話になりました。この誌上でお礼を申し上げることをご容赦ください。ありがとうございました。

米国東海岸 4 都市を訪ねて

伊藤 稜 威 (昭和 40 年電気卒)

1. はじめに

約 20 年振りに米国を旅行した。前回は西海岸だったが今回は東海岸を訪ねた。

2016 年 3 月 30 日から 4 月 7 日までの 7 泊 9 日間で訪ねたのは、ニューヨーク、ボストン、フィラデルフィア、ワシントンの 4 都市である。

主目的はワシントンの桜観賞であったが、今年は地球温暖化の影響で 3 月下旬には満開となり私が訪ねた 4 月初旬にはソメイヨシノは葉桜となっていて非常に残念であった。

かつて日本では“サクラチル”は入学試験合否電文の代名詞であったが、現在はネットの普及により死語になっている。夢にまで見たポトマック河畔の桜は“私を愛しているなら来年また見に来てね”とささやいているようであったが、来年再び本命のソメイヨシノを目指して挑戦するか、滑り止めの八重桜（カンザン）で妥協するか男の気持ちが揺れている。



(写真 1 : ポトマック河畔の桜)

以下本文では観光名所の説明はできるだけ省き私が感じたこと（個人的主観）を述べることにする。

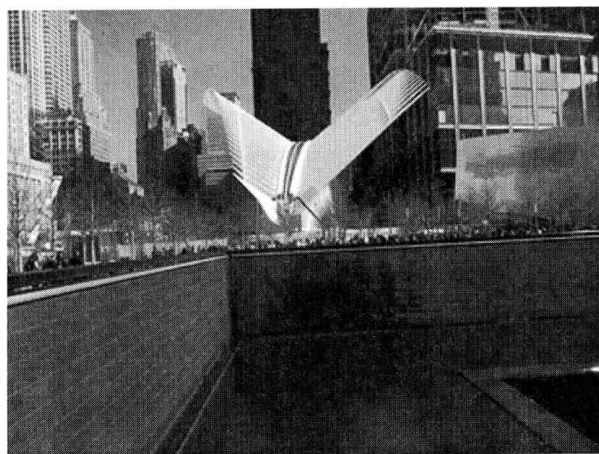
2. 私が感じた米国

<政治、国際>

・大統領選挙：現在米国は大統領の予備選挙の

最中である。クリントン（民主党）とトランプ（共和党）が予備選を勝ち抜く見込みが現時点では高く、本選はクリントンが有利と見られている。米国大統領は米国 1 国の首脳であるだけでなく世界を動かす力をもっている。現職のオバマ大統領は黒人初だったが、もし次期大統領にクリントンが当選すれば女性初ということになり、歴史が塗り替えられる。

- ・国連本部：加盟国は現在 196 カ国の世界最大の国際機関だが、なぜ本部が米国にあるのだろうか？ 本来は中立国にあるべきではないだろうか？ 理由は定かでないが国連を維持するには巨額の資金が必要なので拠出金を多く出している米国に本部がおかれたのではないか？（なお、本部敷地はロックフェラーが寄付している）また安保理常任理事国が持っている拒否権、核保有の権利も世界平和には矛盾していると思っている。
- ・Ground zero：2001 年 9 月 11 日ワールド・トレード・センター（WTC）で起こった無差別テロ事件現場には 3,025 人の犠牲者の墓碑銘が刻まれている。この事件以降、テロへの戦いが始まり、さらには世界各地で無差別テロ事件が多発している。IS の動き、シリア難民問題など課題山積の世界情勢である。



(写真 2 : グランドゼロ記念碑)

<経済、金融>

- ウォール街：世界の金融センターといわれ、アメリカがくしゃみをすれば日本は風邪をひくと揶揄されている。

日本では一時アベノミクスで景気回復が見られたが、原油安、中国経済減速などの国際的な影響を受け減速している。米国のシェール革命の影響もあるようだ。

私個人的にも株、投資信託の下落で金融資産の減少に頭を悩ませている。

- ニューヨークのネオン：繁華街ブロードウェイには、かつて日本の家電メーカーのネオンが輝いていたはずだが、今は韓国サムスン、LGなどにその場所を奪われている。

私の元勤務先 Panasonic のネオンがなくて残念であった。

<文化、芸術>

- ニューヨーク、ボストン、ワシントンでは世界有数の美術館を見学した。

共通点は印象派の巨匠の作品が展示されていたことだった。

メトロポリタン美術館：レンブラント、フェルメール、ゴッホ、ルノアール・・・。

ナショナルギャラリー：ダ・ヴィンチ、ラファエロ、ゴヤ、レンブラント・・・。

ボストン美術館：モネ、ルノアール、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン・・・。

特筆すべきはボストン美術館で日本の浮世絵や仏像が展示されていることである。

このなかには滋賀県の松尾寺にあったとされる国宝級の仏像があって驚いた。

- このほかエジプト、ギリシャ、ローマの彫刻など多数の歴史的名作が所蔵されている。米国の歴史は植民地時代から数えてもわずか400年であるのでアメリカ人の作品は少ない。上記の世界的名画や彫刻の数々はアメリカの経済力によってお金で獲得したものである。

- ミュージカル：ニューヨークのブロードウェイで「CHICAGO」を観賞した。

ことばの壁があって充分には理解できなかったが、一流音楽の雰囲気は味わえた。

- ニューヨークのセントラル・パークにはジョン・レノンのピースマークがあって今でも沢山のファンが訪れ花束を献花している。



(写真3：メトロポリタン美術館)

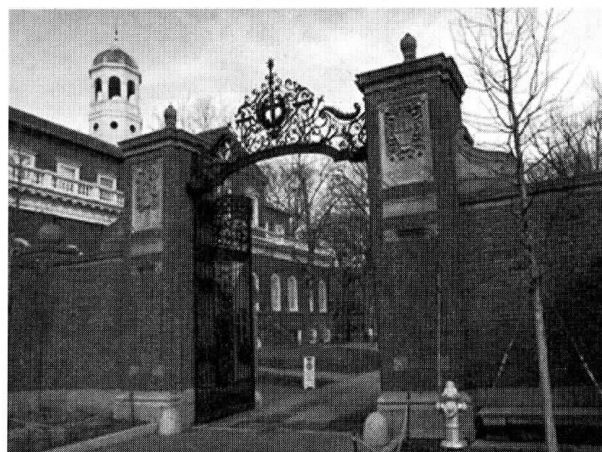
<研究、教育>

- ボストンにあるハーバード大学とマサチューセッツ工科大学（MIT）の2大学を訪問した。卒業生のノーベル賞受賞者はハーバード73人、MIT 33人と世界のトップ10に入っている。（ちなみに東大7人、京大6人）

- 学生は人種、民族の異なる世界各地からトップレベルの頭脳が集まっている。自宅通学はまれで多くの学生は学内で寮生活をしている。このため交友関係が密接で卒業後政界、実業界、学会などの人脈が世界規模で構築されている。（東大、京大は大多数が日本人であって、自宅通学や下宿生が多くこの点でも劣勢である）

学費は年間最低400万円かかるそうだが、低所得者の子弟には奨学金が出ているそうだ。

- ハーバード大学卒業の大統領にはルーズベルト、ケネディ、ブッシュ、オバマなどがある。MIT卒業の著名人にはバーナンキ（前FRB



(写真4：ハーバード大学正門)

議長)、アナン (前国連事務総長)、ヒューレット (ヒューレット・パカード共同創業者) などがいる。

- 最近ハーバード大学関連でメディアの話題になった小保方晴子氏の論文不正、ショーン川上氏の学歴詐称はわれわれ日本人にとって恥ずかしいかぎりだ。

<科学技術>

- ワシントンの国立航空宇宙博物館にはアポロ 11 号の司令船や触ることのできる月の石が展示してある。またライト兄弟が初飛行した飛行機、日本のゼロ戦も展示されている。また IT 関連の最先端の技術も紹介されている。
- 交通機関はアメリカの国土が広い航空機と自動車は発達しているが鉄道は全く遅れている。今回の旅ではボストン～フィラデルフィア間は列車の旅だったが速度は新幹線の約 1/2、停車時間は長いところは 10 分ぐらいあった。車内サービスも悪く 1 等車とは思えなかった。



(写真 5：ライト兄弟の飛行機)

<スポーツ>

- ボストン滞在中にフィギュアスケートの世界選手権大会が開かれ日本からは羽生結弦選手や浅田真央選手が出場していた。羽生選手は優勝候補だったが残念ながら 2 位であった。羽生選手のような名選手でもオリンピックや世界選手権で連戦連勝するのは困難なのだろう。(羽生選手は神様ではなく人間であった！)
- 大リーグボストンレッドソックスの本拠地フェンウェイ・パークを見学した。この球場は全米一歴史のある球場で、永久欠番のテット・

ウィリアムス [9]、ジャッキー・ロビンソン [42] など名選手の銅像があった。

日本人選手ではかつては松坂投手が、今は上原投手が活躍しているチームである。

今回はまだ大リーグが開幕前のため試合観戦は出来ず残念であった。

3. おわりに

米国は最近力が衰えたとはいえ世界 No1 の国である。人口は我が国の 2.5 倍、面積 25 倍あって、政治、経済、軍事、資源、科学大国である。アジアの島国日本から脱出して大陸的な立場で物の見方考え方の転換を図ることは重要ではないかと思う。

地球には北米大陸の他に南米、欧州、豪州、アフリカ、アジア、南極の各大陸があってそれぞれスケールの大きな自然や人々の歴史や文化がある (私の海外訪問国は現在 37 カ国)。この文書を書いている間に私は 74 歳の誕生日を迎えた。この年齢になって海外の歴史や文化の知識を身につけても社会的にはあまり役に立たない。また体の抵抗力が落ちており、ビジネスクラスで行っても 13 時間の時差や 20℃ の寒暖の差についていけず風邪をひいてしまった。せいぜい冥土の土産になる程度であろう。

私はこういう体験は若い世代に積極的にしてもらいたいと思っている。子供の世代 (30～40 歳代) の方々は仕事で積極的に海外に出て行く、孫世代 (10～20 歳代) の方々は海外留学をして世界的視野を広げて欲しいと願っている。

最近海外に出る日本の若者が減ってしまっていて、中国、韓国、台湾などアジア勢が増えている。若い日本の皆さんの奮起を期待している。

以上

追記 1：2016 年 3 月 19 日高田幸雄様 (30 年卒) からワシントンの桜開花情報に関して貴重なアドバイスをいただきました。

追記 2：2016 年 7 月 20 日高田幸雄様と札幌にて初対面をして親交を深めることができました。(岩大のこと、お互いの仕事、趣味、家族などを話し合いました)

追記 3：米国大統領選挙結果、メディアの予想が覆ってトランプ氏が当選しました。トランプ氏は過激な発言で世界を揺るがしていますが、世界平和のために活躍してほしいと願っています。

平成 28 年 年表

1/8	供花・弔電 佐藤淳顧問(1月6日逝去)
1/16-17	大学入試センター試験
1/20	理事会・新年会打合せ、創立 75 周年第 2 回準備委員会・「きたかみ」第 3 回編集委員会、27 年度第 2 回会費検討委員会 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・久保田盛岡支部長・佐藤理事・長田理事・木村理事・柳橋理事 工学部地域連携センター
1/22	【SPERC 実践的ロボットビジョン研究グループ講演会】 「ビッグデータと脳：5つの指導原理～認知神経科学の視点から」下條信輔氏（カリフォルニア工科大学教授） 「最先端脳科学研究」松田哲也氏（玉川大学脳科学研究所教授）
1/26-27	平成 28 年度大学院博士前期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 28 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻志願者 11 名（私費外国人留学生，社会人特別選抜は志願者なし）
1/28	平成 28 年度大学院博士後期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 28 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻志願者 3 名（うち，社会人特別選抜 1 名）
1/30	平成 27 年度第 3 回理事会 15 人 岩手県公会堂 12 号室
1/30	盛岡支部主催科会新年会 岩手県公会堂 21 号室 30 人
2/4	入学願書受付締切。システム創成工学科電気電子通信コース：前期 1.6 倍，後期 5.5 倍，同知能・メディア情報コース：前期 1.9 倍，後期 4.6 倍
2/4	草刈賞選考委員会 岩手大学工学部 選考委員 電気電子工学コース：高木浩一（電気電子工学コース長）・向川政治（4 年生担任） 情報システム工学コース：今野晃市（情報システム工学コース長）・平山貴司（4 年生担任） 電気電子情報科会：旗福寛（会長）・柏葉安兵衛（相談役・選考委員長）
2/8	「きたかみ」第 3 回編集委員会 校正その他 会長・久保田盛岡支部長・柏葉相談役・事務局 3 人 岩手大学工学部
2/18	電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース）卒業研究発表会
2/19	電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）修士論文審査発表会
2/24	「きたかみ」62 号校了
2/25	平成 28 年度個別学力検査前期日程。システム創成工学科電気電子通信コース志願者 65 名，同知能・メディア情報コース志願者 70 名
3/1	新正会員歓迎会打合せ 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 工学部地域連携センター
3/1	「きたかみ」62 号発行 5400 部
3/7-8	動的画像処理実利用化（DIA）ワークショップ 2016 開催
3/9	新正会員歓迎会 74 人（新正会員・院生 57 人） 岩手大学工学部生協食堂
3/9	第 13 回草刈賞候補者 佐藤駿至
3/12	平成 28 年度個別学力検査後期日程。システム創成工学科電気電子通信コース志願者 55 名，同知能・メディア情報コース志願者 55 名
3/19	千葉則茂先生最終講義『CG 研究を核として』岩手大学復興祈念銀河ホール
3/23	岩手大学卒業式・修了式 工学部第 64 回卒業生：情報システム工学科 1 名，電気電子・情報システム工学科 133 名（電電コース 67 名，情報コース 66 名） 大学院博士前期課程第 47 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 51 名 大学院博士後期課程第 18 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻該当者なし
3/31	情報システム工学コース 千葉則茂教授 定年退職 工学系技術部 佐藤正明氏 退職
4/1	岩手大学改組 工学部は理工学部に，電気電子・情報システム工学科はシステム創成工学科にそれぞれ再編（電気電子工学コースは電気電子通信コースに，情報システム工学コースは知能・メディア情報コースに再編）
4/1	古館守通氏を理工学系技術部職員として採用
4/4	一祐会データベース等対応検討会 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・佐藤匡理事・立花理事・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学理工学部
4/7	岩手大学入学式 理工学部入学生：システム創成工学科電気電子通信コース 64 名（うち地域創成特別選抜ものづくり系 1 名），同知能・メディア情報コース 60 名（うち地域創成特別選抜ものづくり系 1 名） 3 年次編入学生：電気電子工学コース 6 名，情報システム工学コース 6 名 大学院博士前期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻 50 名 大学院博士後期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻 4 名
5/1	阿部貴美氏を電気電子通信コース助教として採用
5/9	一祐会理事会報告・70 周年実行委員会・会費検討委員会 旗福会長・柏葉相談役・鳥谷部副会長・佐藤匡理事・立花理事・長田理事・木村理事・柳橋理事
5/19-20	電気電子通信コース ソフトボール大会
5/20	【ソフトパス理工学総合教育センターシンポジウム】 第 1 部 SPERC 研究のトピックス 第 2 部 SPERC 新研究グループの紹介 第 3 部 SPERC 研究グループの実績と活動報告
5/23	計測自動制御学会東北支部第 301 回研究集会開催
5/23	平成 27 年度岩手大学電気電子情報科会会計監査 及川二千朗監事・大坊真洋監事・旗福会長・柏葉相談役・柳橋理事 岩手大学理工学部
5/28	平成 28 年度第 1 回理事会 平成 28 年度総会提案事項協議、75 周年記念式典・祝賀会、科会活動活性化等 17 人 岩手県公会堂 12 号室
5/30-6/3	岩手大学理工学部授業一般公開
6/1	開学記念日

6/2	電気電子工学特別研修 「日雇いの大学研究者がベンチャー社長になると!?」宮原秀一氏（プラズマコンセプト東京）
6/9	会長事務局打合せ 75周年記念式典・祝賀会について 旗福会長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学理工学部
6/中	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成28年9月修了予定者》および中間発表会《平成29年3月修了予定者》 (分野別)に実施)
6/14	75周年記念式典最終チェック 旗福会長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事 岩手大学理工学部
6/16	電気電子工学特別研修 「エネルギー選択と環境課題の解決」中原 豊氏（三菱総研客員研究員）
6/18	平成28年度盛岡支部総会 30人 岩手県公会堂26号室
6/18	平成28年度岩手大学電気電子情報科会総会 50人 岩手県公会堂26号室 平成27年度事業報告、決算報告・会計監査報告、平成28年度事業計画、予算、会則の改定、役員の選任について
6/18	岩手大学電気電子情報科会創立75周年記念式典及び祝賀会 52人 岩手県公会堂21号室 草刈功労特別賞 太田原功氏、草刈功労賞 歳弘健氏・長岐芳郎氏・小野寺瑞穂氏
6/23	電気電子工学特別研修 「基礎自動車工学～電動化自動車システムと要素技術」今関隆志氏（いわて産業振興センター）
6/23-24	平成29年度一般編入学者選抜試験。電気電子通信コース志願者14名、知能・メディア情報コース志願者8名
6/25	仙台支部総会 役員改選・支部長交代 特別講演：千葉則茂氏・阿部貴美氏 25人 ハーネル仙台
6/30	一祐会会長へ「北社」への会費請求書同封についての出願 提出
6/30	電気電子工学特別研修 「ものづくり～岩手から～世界へ」伊東寿勝氏（横河電子機器）
7/5	平成29年度大学院博士前期課程推薦入学者選抜試験。電気電子・情報システム工学専攻志願者6名
7/19	一祐会会長より「北社」への会費請求書同封についての出願への回答
7/25	理事会事前打ち合わせ 理事会協議提案事項・「北社」に会費請求書を同封する問題について等 旗福会長・柏葉 相談役・佐藤匡理事・立花理事・長田理事・木村理事・柳橋理事
8/10	オープンキャンパス
8/11	情報システム工学コース スポーツ大会
8/20	平成28年度第2回理事会 平成28年度事業について、ほか 15人 岩手県公会堂特別室
8/30-9/1	平成28年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成28年10月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者3名 平成29年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成29年4月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者58名 平成28年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成28年10月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者3名 平成29年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成29年4月入学》電気電子・情報システム専攻志願者1名
9/8	電気電子工学科工場見学《東北地区》イノアーク北上工場、富士通ゼネラルエレクトロニクス一関、引率：叶助教、 高橋助教（参加者32名）
9/14-16	電気電子工学コース工場見学《関東地区》フジクラ、東洋電機製造、アンリツ、NTTドコモ、引率：叶助教、三浦准 教授（参加者39名）
9/23	平成29年度地域創生特別プログラムAO1二次選抜試験。電気電子通信コース1名合格、知能・メディア情報コース 2名合格
9/下-10/上	電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）修士論文中間審査
9/26	平成28年度岩手大学修了式・卒業式（農業教育資料館）
9/30	理工学系技術部 庄司こずえ氏 東北大学に転出
10/3	藤原歩氏を理工学系技術部職員として採用
10/3	岩手大学入学式（平成28年度10月入学者） 大学院博士前期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻2名 大学院博士後期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻3名
10/15	オープンキャンパス（大学祭）
10/19	「きたかみ63号」第1回編集委員会 75周年記念式典・佐藤淳先生追悼記事等の検討 旗福会長・柏葉相談役・ 久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事
10/22	東京支部大会 講演：千葉則茂氏「研究者育成から もの造り人材育成へ」
11/7-11	岩手大学理工学部授業一般公開
11/22	平成29年度岩手大学理工学部推薦入試I。電気電子通信コース志願者21名、知能・メディア情報コース志願者35名
11/25	電気電子工学特別研修 「IT業界動向、仕事の経験や仕組み、就活におけるアドバイス」吉川智彦氏（ソフトクリエイティブホールディングス）
11/29	【理工学部設置記念特別講演会】 記念講演①「『更なる価値』をお客さま・世の中へ」吉澤和弘氏（NTTドコモ代表取締役社長） 記念講演②「340×1036のコネクション時代に向けたDigital Transformation」佐々木繁氏（富士通研究所代表取締役 社長） パネル討論会「テクノロジーの未来と理工学部に期待されるもの」パネリスト：吉澤氏、佐々木氏、コーディネー ター：船崎健一理工学部長
12/2	【システム理工学系講演会】 「3次元計測における欠損検出および復元技術」村木祐太氏（大阪工業大学特任助教）
12/9	電気電子工学特別研修 「自動車産業におけるミクニの取組と電気系出身者の役割」福井克彦氏、村上正樹氏（ミクニ）
12/上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成29年3月修了予定者》および中間発表会《平成29年9月修了予定者》 (分野別)に実施)
12/12	電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）M1中間発表会
12/15	【システム理工学系講演会】 「3次元形状の欠落補間手法とその応用」木下勉氏（福井工業大学准教授）
12/16	電気電子工学特別研修 「経済と科学技術・エネルギーの視点からの「持続可能な社会」とリスク評価」山崎慶太氏（竹中工務店）
12/17	平成28年度情報処理学会東北支部研究会開催
12/26	「きたかみ」63号第2回編集委員会 岩手大学理工学部 旗福会長・柏葉相談役・久保田盛岡支部長・立花副 会長・長田理事・木村理事・柳橋理事

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を

以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれ招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |

- 第17条 各役員の内任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。

- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
(昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)
岩手大学大学院総合科学研究科設置の日から適用

「きたかみ」63号トピックス

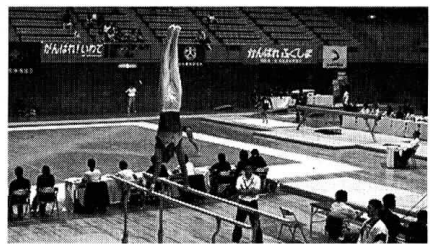
平成28年は、希望郷いわて国体・いわて大会の年でした。東日本大震災に対する沢山の応援への感謝の大会でもありました。

1月2月の冬季大会に始まり、本大会は10月1日から11日まで全県下各地を会場に開催されました。

県や各市町村がそれぞれ特徴を生かして選手団をもてなし、学生アルバイトも沢山の動員されて無事に終わりました。選手団の頑張りはもちろんですが、開会式前や閉会式での歓迎の演技が印象的でした。鬼剣舞・鹿踊り・虎舞・男子新体操とダンスのコラボレーションなど、何ととっても700人の一糸乱れぬ盛岡さんさ踊りは圧巻でした。

ともに岩手県出身のストーリーテラー（村上弘明氏）とボーカリスト（柴田泰孝氏）は気品に満ち、その声は心に響きました。

続いて10月22日から24日まで行われた希望郷いわて大会（第16回全国身障者スポーツ大会）も大きな盛り上がりの中で終わり、各県の選手、関係者は岩手の温かさをお土産に帰郷したことでしょう。



編集後記

「きたかみ」63号をお届けいたします。

本号は、6月に開催された岩手大学電気電子情報科会創立75周年記念式典等の特集いたしました。長い歴史から先輩たちの学問追及や同窓意識の高さに感動を覚えるとともに、その末端に席をおくことのできる幸せを感じながらの編集でした。

また、会長挨拶にありますように、電気工学科の工作室（私たちは工場と呼んでいました）にいらした田中博さんがお亡くなりになりました。達筆でとても器用な方でした。お世話になった方も多いと思います。工作室の一角で沼田六七八さんと楽しそうに談笑している姿を思い出します。心よりご冥福をお祈りいたします。なお、田中博さんは田中健二東京支部長のご尊父です。

平成29年度総会は、ご案内の通り東京で開催いたします。東京支部のみな様には大変お世話になります。沢山のご出席をお願い致します。

編集委員 籾福 寛 (会長：昭和38年電気卒)
柏葉安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)
久保田賢二 (盛岡支部長：昭和42年電気卒)
長田 洋 (事務局：昭和62年電気卒)
木村 彰男 (事務局：平成3年情報卒)
柳橋 好子 (事務局：昭和45年電子卒)

きたかみ 第63号

発行日 平成29年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学理工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎019-621-6381
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎019-623-2361

平成29年度総会、東京支部大会並びに懇親会開催のご案内

平成29年度の電気電子情報科会総会は、下記のように東京にて、東京支部大会と合同で開催することになりましたので御案内申し上げます。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

総会への出欠については、綴込みのハガキに、住所や連絡先等をご記入いただき、一ヶ月前の平成29年5月24日までにご投函いただきたくお願い申し上げます。

また、懇親会にご出席の方は、同封の払込取扱票にて、懇親会費の振込をいただければハガキの投函の必要はございません。なお、振込手数料はかかりません。

記

- 日 時 平成29年6月24日(土)
- | | |
|---------|---------------|
| 受 付 | 午後0時30分～ |
| 東京支部総会 | 午後1時00分～1時40分 |
| 総 会 | 午後1時45分～2時30分 |
| 講 演 会 等 | 午後2時30分～4時00分 |
| 懇 親 会 | 午後4時30分～6時30分 |
- 場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
〒102-0075 東京都千代田区九段北4-2-25
TEL 03-3261-9921(代表)
- 議 題 1. 平成28年度事業報告、決算報告承認
2. 平成29年度事業計画案、予算案審議
3. その他
- 講 演 会 ①演題「大学の近況と研究動向(仮)」
講師：小 林 宏一郎 氏(電気電子通信コース長)
②演題「『更なる価値』をお客様へ・世界へ」
講師：吉 澤 和 弘 氏(NTTドコモ代表取締役社長・昭和54年情報卒)
- 懇親会会費 8,000円(懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)
- 連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。
- 岩手大学電気電子情報科会事務局(岩手大学理工学部電気電子・情報システム工学科内)
電気電子通信コース担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381
E-mail osada@iwate-u.ac.jp
知能・メディア情報コース担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488
E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp
庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253
E-mail t.k-yngbs@nifty.com
東京支部 山 道 隆 男 TEL・FAX 046-211-3930
携帯 090-5321-5004
E-mail tyama.japan@gmail.com